

# 郷土教育推進研究報告書

平成29年度  
「郷土日野」指導事例  
第13集

日野市立教育センター  
郷土教育推進研究委員会

# 目 次

第13集の発行にあたって 日野市立教育センター 所長 松澤 茂久 …………… 1

## I 研究の概要

1. 研究主題 …………… 2
2. 研究主題設定の理由 …………… 2
3. 研究の目的 …………… 2
4. 重点課題 …………… 3
5. 研究構想図 …………… 4
6. 研究の進め方 …………… 5
  - (1) 研究組織 (2) 研究経過 …………… 5

## II 研究の内容

1. 郷土教材を活用した実践授業
  - (1) 平山地区の歴史を活かして～平山遺跡～（第4学年 社会科） …………… 6
  - (2) 郷土の発展に尽くす  
～多摩動物公園と林寿郎（初代園長）～（第4学年 社会科） …………… 18
  - (3) ぼくたちわたしたちが住んでいる日野がだいすき！  
～地域にゆかりのある“平山季重”について知り、  
自分の住む町に興味をもち、好きになろう～（幼稚園 年少） …………… 30
  - (4) 高幡不動の不思議な話から、自分たちの住むまち日野に親しみをもつ（幼稚園 年長） …… 34
  - (5) 高幡不動とお不動様（第3学年 社会科） …………… 38
  - (6) 地域に生きる「異聖歌の心」（第4学年 総合的な学習の時間） …………… 42
  - (7) 平山陸稲（ひらやまおかぼ）はなぜ日本中で育てられたのか（第4学年 総合的な学習の時間） … 46
  - (8) 今も残る戦争の傷跡  
～戦争と人々の暮らし～（第6学年 社会科） …………… 50
  - (9) 多摩地域は昔神奈川県だった  
～学校の開校を通して～（第4学年 社会科） …………… 54
  - (10) 武士のおこりと牧  
～馬頭観音・落川遺跡から知る武士団の生活～（第5学年 社会科） …………… 58
  - (11) 鉄道と共に発展した七生村（第3学年 総合的な学習の時間） …………… 62
2. 関連機関との連携
  - (1) 七生地区（旧七生村）の歴史について（新選組のふるさと歴史館） …………… 66
3. 郷土教育のための普及・啓発
  - (1) 地域を知る指導者の育成「三沢を訪ねて～湯沢・中沢・小沢を歩いて～」 …………… 68

## III 研究のまとめ ～成果と課題～

1. 成果 …………… 73
2. 課題 …………… 74
- ◎ 郷土教育推進研究協力者・委員会委員名簿 …………… 75



## 第13集の発行にあたって

日野市立教育センター

所長 松澤 茂久

今年1月に発表された平成30年度の日野市教育課程編成基本方針概要では3つの柱の1つに「地域の中で学び・活動する 地域がステージの学校教育」が掲げられ、「総合的な学習の時間、特別活動、行事等を活用した児童・生徒が地域から学び、地域のために何ができるかを考えて活動する教育活動の推進」と地域と共に教育を創っていく方針が述べられています。

昨年から地震緊急速報の他に「Jアラート」全国瞬時警報システムという速報も流されることになり、他国の一挙一動の影響がすぐ我が国にも及んで来るような情勢になりつつありますが、こういう時ほど、国際的視野を広げると同時に、自分たちの拠って立つ基盤を認識し、そこを土台として思考を拡げることが大切になります。郷土教育はそういう意味でも過去を探りつつ未来に目を向けた重要な分野なのです。

さて、「郷土日野」指導事例第13集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（仲田小学校校長 池田泰章委員長）が、平成29年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより、ふるさと日野に誇りと愛着をもった子供を育てようとするもので、10年以上続き、日野教育の大きな特色となっています。29年度の研究も、幼稚園、小・中学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々などの参加と協力を得て、日野の地域の力を結集して行いました。

今年度、従来と異なる点は、七生地区に焦点を絞ったことです。今まで日野の歴史は、日野の宿場があり、新選組誕生の地である旧日野町中心に語られてきました。旧七生地区に関しては、村役場が焼けたことなどで資料も少なく、子供たちが読めるような冊子はあまりありません。そこで今年から3年計画で小学生向けの「仮称～歩こう調べよう

ふるさと七生～」という冊子を作ることになり、本事例集も、その冊子作りを前提として授業に取り組んだものです。完成後の冊子と相まって活用されることを願ってやみません。

大変忙しい中を、郷土教育推進研究委員会に参加してご努力いただいた現場の先生方はじめ各委員の皆様、そしてご協力をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 郷土意識を育む指導の在り方 ～七生地区を中心とする地域素材の教材化を通して～

## 2 研究主題設定の理由

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する13年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の平成26年3月の第2次学校教育基本構想では、「地域と共につくる基本と先進の教育」を掲げ、教育のまち日野を目指して、「21世紀を切りひらく力」「次代をつくる特色ある学校づくり」「つながりによる教育」の3つの基本方針に基づき12項目と36の取り組みを設定し取り組んでいる。

さらに、基本方針3では『人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進するため、グローバルな視野をもったつながりによる教育と自然や歴史、文化、芸術、スポーツ、ものづくりに触れる豊かな体験を通して郷土教育を推進することに触れている』としている。

この第2次学校教育基本構想においても「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、郷土教育推進研究委員会では郷土教材の発掘、教材化に努め、指導計画を作成し、全市の幼稚園、小・中学校に普及啓発するため、「郷土日野」の指導事例集を作成し、市内全幼稚園、小・中学校、市立博物館、図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土を育む指導の在り方～七生地区を中心とする地域素材の教材化を通して～」と設定し、重点課題3点に絞って推進研究と授業実践に当たることとした。

## 3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次の児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる ひのっ子

## 4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。また、本市の重点課題を受け、これまでに引き続き幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組むと共に授業開発に力を入れる。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材の開発と郷土教材・実践事例の電子データ化

### （1）郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏季郷土教育研修会（市教委共催）を実施し各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。また、年度末に1年間の研究・実践の成果を発表する。夏季研修会は以下の内容で実施した。
  - ・午前 三沢地区フィールドワーク
  - ・午後 日野第八小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校・地域での郷土教育のリーダーとなる。
  - ・毎月の委員会、実践報告・協議を重ね、研究を深める。
  - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。
- ③ 幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

### （2）幼稚園・博物館・図書館との連携

博物館・図書館が学校と関わる機能・役割として次の3点が考えられる。

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことができる。

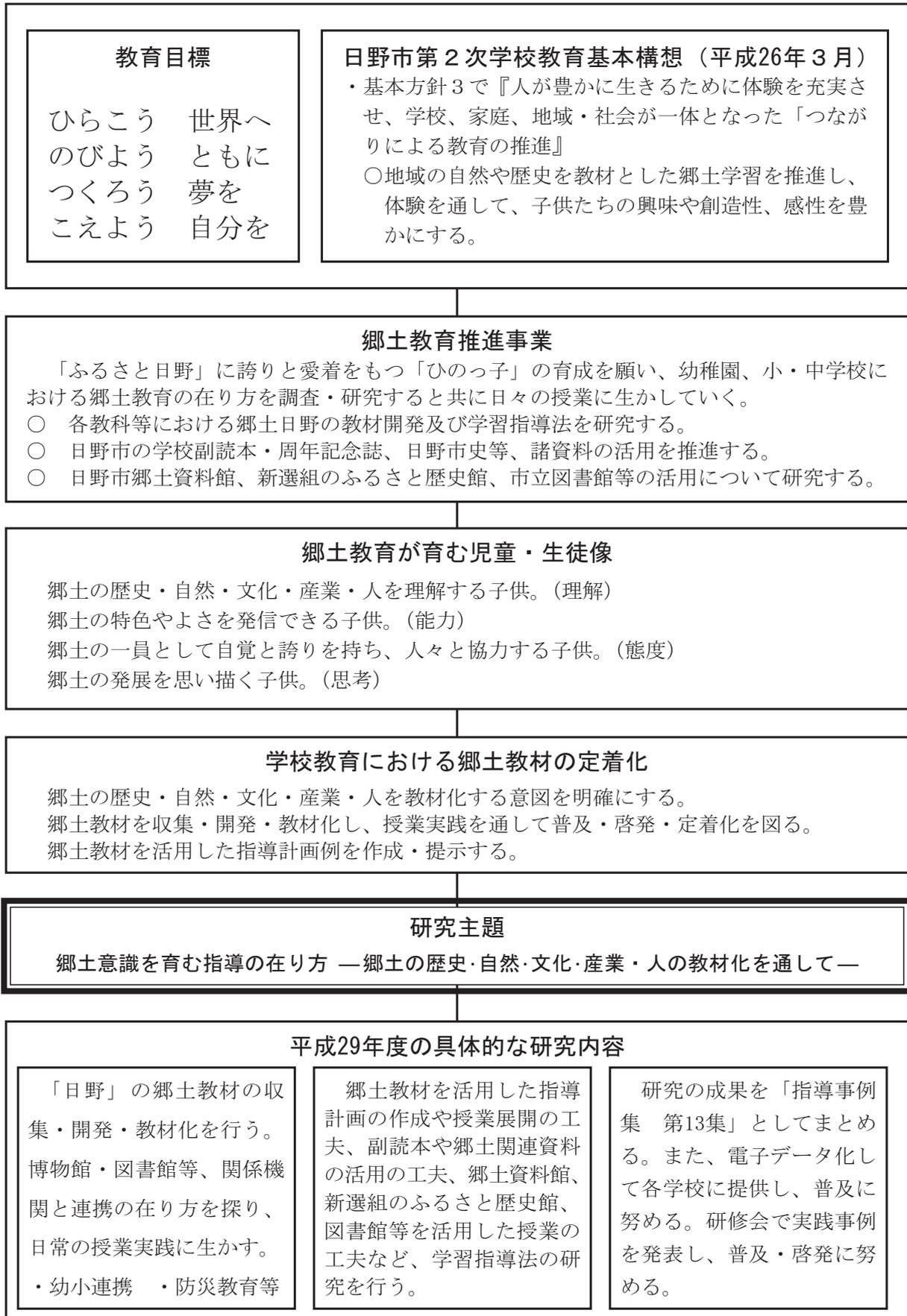
博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

2年前より幼稚園でも郷土教育に取り組むことになった。今年度も幼・小連携しながら、どのような実践ができるか、実践を通し検証した。

### （3）郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1～第13集 全ページが閲覧できる。（図版がカラーで見ることができる。）
- ② 年間2回発行の「教育センターだより」に、本委員会で発掘・教材化した事例や授業実践を掲載する。

## 5 平成29年度研究構想図



## 6 研究の進め方

### (1) 研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センターを事務局として、23名からなる委員会組織を構成した（この他に事務局会議委員6名）。ほぼ月1回の郷土教育推進研究委員会では、教育センターを会場に開発教材・実践事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学等を行った。

### (2) 研究の経過

日時・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
5月2日（火） 仲田小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画 日程等の打ち合わせ
5月16日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員会の構成・組織づくり ・本年度の研究内容の検討 ・研究活動日程の検討
6月13日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討（学年、地域） ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月19日（水） 三沢地区	フィールドワーク実地踏査	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
7月25日（火） 三沢地区	郷土教育推進研究委員会③ 「一日研修会」 午前 フィールドワーク 午後 講義・演習	・フィールドワーク（湯沢川、旧医王寺、三沢八幡、七生緑小、小沢、金田公園） ・室内研修（事例発表、講義、演習）
8月25日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワーク反省、まとめ 夏季課題別研修
9月19日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導の検討・協議 ・研究発表の内容、発表者の検討 ・実践事例集13集プロット検討案検討
10月26日（木）	郷土教育推進研究委員会⑥	・研究授業「郷土の発展に尽くす—多摩動物公園の設置—発展に尽くした林寿郎」 夢が丘小学校 4年 永吉学級
11月9日（木）	郷土教育推進研究委員会⑦	・研究授業「平山地区の特色あるまちづくり—平山遺跡—」 滝合小学校 4年 関根学級
11月24日（金） 仲田小学校	役員会②	・平成29・30年度の予定、研究発表会までの日程、内容の検討協議
12月19日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑧	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・実践事例集13集の内容の検討案検討
1月23日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑨	・郷土教育を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月19日（月） 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑩	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第13集作成手順
2月6日（火）		・「郷土日野」指導実践第13集 業者原稿入稿
3月30日（金）		・「郷土日野」指導実践第13集 業者納品
4月中		・関係機関へ発送 ・電子データ化（HP公開）

（中島 和夫、廣木 智之）

## Ⅱ 研究の内容

### 1. 郷土教材を活用した実践事例

#### (1) 平山地区の歴史を生かして ～平山遺跡～

(第4学年 社会科)

##### 1. テーマの設定理由

平山地区は、近年の土地区画整理事業に伴う事前の発掘調査によって、つぎつぎと遺跡が発見されている。遺跡では、遺構だけではなく、土器や鉄剣も発見されており、その時代の生活の様子を想像することができる。また、現在調査中の場所では、平安時代のものと考えられる四方約150mの大型の掘立柱建物跡が見つかった。この時代、関東地方は武蔵国と呼ばれ、武蔵国府である現在の府中市にあるものと同じくらいの大きさのものであり、注目されている。

しかし、子供たちはこのような遺跡に触れることなく、調査が終わると土地区画整理のため埋められてしまうのが現状である。そこで、平山遺跡やそれを調査する人々の願いに触れて、大昔のこの地域に興味をもたせていきたい。

##### 2. 教材の意図

本単元は、4年社会「わたしたちの東京都」と関連を図り、内容(6)のウ、「県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」に位置づけて学習をする。平山遺跡の出土品について調べたり、掘立柱建物跡の大きさに着目して歴史的な意味を考えたりしながら、平山遺跡に愛着をもち、さらには、それらを保護・活用しながら、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている日野市の人々の互いの協力について学習していく。学習指導要領(内容の取扱い)には、「自分たちの住んでいる市とは異なる地域を選択し、比較しながら県全体の特色をとらえることができるように配慮する必要がある。」とある。そのため本小単元は、浅草や八丈島の事前の学習と位置付け、平山遺跡の学習を通して、浅草や八丈島の学習と比較する見方や考え方を身に付け、さらには、自分たちの地域のよさにも気づき、地域に対する愛着をもつことがねらいである。

##### 3. 教材について

○平山遺跡(遺跡番号22) 所在地 日野市東平山一・二丁目、西平山、豊田



日野市役所が立地する日野台地より一段低い立川段丘面に立地する遺跡である。中央線豊田駅南側から日野市と八王子市の市境に向け四方に広がっており、縄文時代、古墳～平安時代の集落、方形周溝墓、古墳、中世の地下式土坑などが見つかった。遺跡範囲西側は、西平山古墳群、平山橋北西側には平山古墳群があり、後者の平山2号墳から出土した鉄製武器、耳環等は東京都有形文化財に指定されている。本単元では、滝合小学校の近くにある遺跡を中心に学習する。

遺跡の概要	時代	主な出土遺跡
台地。集落。住居、土坑、古墳、方形周溝墓、地下式土坑、集石	縄文・古墳(前・中)・奈良・平安・中世	縄文土器、土師器、須恵器、石製品、鉄製品、銭貨、人骨

## ○遺構と出土遺物

本単元は主に、H27年8月10日～10月30日に日野市教育委員会の現場立ち合いをもって現地調査したものを参考としている。確認された遺構は、竪穴住居3軒、土坑9基、方形周溝墓1基、ピット6基である。

出土した遺物は点数にして7,983点である。遺構内及び遺構外を合わせた内訳は縄文土器5,097点、弥生土器233点、土師器29点、陶磁器4点、土製品3点、土製円盤2点、鉄製品5点、石製品1点、ガラス製品2点、石器324点、礫2,278点、自然遺物3点、その他2点である。

完形のを以下に示す。

種別	法量 (cm)	色調 (外・内・断)	観察	備考
弥生土器	口径 19.6～20.2 底径 なし 器高 30.1	・鈍赤橙褐～赤褐色 ・灰褐～赤褐 ・赤褐	やや内湾ぎみに緩やかに外反するキザミ口縁で、やや面長の球胴で、胴部中位に最大径を有する。脚部はやや直線的なハの字を呈する。接続部は粘土塊を上部より充填する。	やや軟質で荒い胎土
弥生土器	口径7.1 底径5.7 器高11.0	鈍橙 橙 橙	丸頭状の口縁部で、外反する。肩部はやや張、胴部はやや面長。底部は幅広でやや突出する。	精製品 軟質
鉄製品	長さ15.7	木質は赤橙色を呈する。 錆が付着。	鞘の木質が残存し、また柄にも木質が残存し、穿気孔部分で装着されている。	副葬品 被葬者連行品
石鏃 (縄文)	5.5		大型で、節理状に剥がれる石材を使用	
磨石 (縄文)	8.5		全面磨面	

## ○本調査地区とその周辺の発掘調査地区



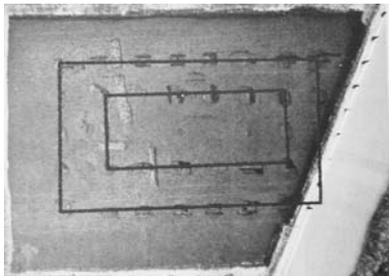
- A地区 竪穴住居、古墳の周溝 集落
- H地区 竪穴住居
- I地区 方形周溝墓 古墳の周溝
- J地区 竪穴住居 L字状土坑
- K地区 竪穴住居
- L地区 集落、竪穴住居



←現在の本調査地

### ○掘立柱建物跡

古代武蔵国の政治的中心であった現在の府中市で発見された「国府正殿」以外にない、平安時代のものと考えられる掘立柱建物跡である。2間×5間の身舎（もや）の周囲に廂（ひさし）がめぐっている。全体の規模は4間×7間で、東西12m×南北22mである。H29年8月25日（金）に地域住民に向けて、遺跡見学会を行っている。遺跡見学会での説明では、武蔵国府の役人の家柄として代々役目を果たしてきた日奉氏や、その後、源義経にゆかりのある勇将、平山季重とのつながりを示唆する説明があった。



調査見学会資料より

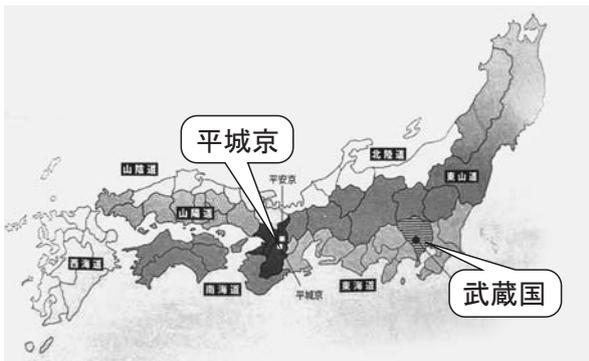


見学会前日の作業の様子

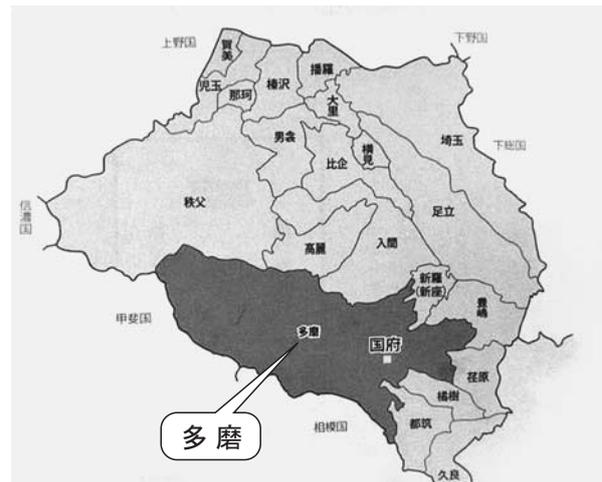


武蔵国府の公的建物の復元想像図

### ○武蔵国



・古代国家は、大陸・唐に倣い、政治的権力を中央官庁に集中・統一した中央集権的な国家体制をつくりあげた。その根幹をなすのが、地方行政のシステムであり、行政単位としての国である。国の数は一定していないが、60前後。武蔵国はその1つである。



・武蔵国は、今日の東京都埼玉県、そして神奈川県川崎市と横浜市の大部分を占める広大な国で、21の郡を管轄した。

#### 4. 地域の歴史を保護・活用する日野市や東京都の取り組み



【掘立柱建物跡の見学を周知する掲示板】



【都が行っている発掘調査の看板】



【第12回平山季重まつりのポスター】

市や都の  
取組み



【平山季重の名前をとった施設（図書館などの多目的施設）】

#### 5. 郷土教育主題との関連性

郷土意識を育む指導の在り方 — 郷土の歴史・自然・産業・人を用いた授業づくり —

今年度の日野市郷土教育推進事業は、昨年度に引き続き「郷土意識を育む指導の在り方—郷土の歴史・自然・産業・人を用いた授業づくり—」という研究主題を設定している。

今回の、本小単元を実践するにあたり、研究主題にある「郷土意識を育む」を、平山遺跡を社会的な見方・考え方を通して、時期や時間の経過に気付き、時代や変化、発展を考えることととらえた。また、平山遺跡を保護・活用する人々の願いに触れながら、研究主題に迫っていく。

## 6. 日野市学校教育基本構想との関連性

平成26年3月に日野市教育委員会から発表された「第2次日野市学校教育基本構想 教育のまち 日野」では、3つの基本方針に基づき、12の項目と36の取組みを推進していくとしている。基本方針3の中の「グローバルな視野をもったつながりによる教育」という項目の中に「地域・社会の一員として、郷土及び日本の伝統・文化を学び、守っていくとともに、ふるさと日野を愛し、社会とかかわるひのつ子を育てます。」とある。

## 7. 児童の実態

以下は、平成29年度10月16日に行った調査である。調査対象は、4年1組34名（回答数33名）である。調査前には、社会科「わたしたちの東京都」の単元で、東京都全体に視野を広げた質問を行っている。東京都全体と比較しながら回答したアンケート調査である。

<b>質問1 あなたは、自分が住んでいる日野市が好きですか。</b>		
とても好き	11人	<b>【とても好き】【好き】と回答した理由</b> 歴史に関するもの 0人 自然に関するもの 14人 産業・施設に関するもの 0人 人に関するもの 3人 その他1人
好き	8人	
あまり好きではない	5人	
嫌い	1人	
わからない	8人	

<b>質問2 あなたが住んでいる日野市には、他の市にじまんでできることがどれくらいありますか。</b>		
たくさんある	2人	<b>【たくさんある】【少しある】と回答した理由*複数回答</b> 歴史に関するもの 2人 自然に関するもの 14人 産業・施設に関するもの 5人 人に関するもの 1人 その他0人
少しある	19人	
全く思いつかない	12人	

<b>質問3 あなたは、自分が住んでいる平山地区が好きですか。</b>		
とても好き	5人	<b>【とても好き】【好き】と回答した理由*複数回答</b> 歴史に関するもの 0人 自然に関するもの 5人 産業・施設に関するもの 6人 人に関するもの 4人 その他1人
好き	12人	
あまり好きではない	2人	
嫌い	1人	
分からない	13人	

<b>質問4 あなたが住んでいる平山地区には、他の地区にじまんでできるところがどれくらいありますか。</b>		
たくさんある	1人	<b>【たくさんある】【少しある】と回答した理由*複数回答</b> 歴史に関するもの 0人 自然に関するもの 8人 産業・施設に関するもの 9人 人に関するもの 1人 その他0人
少しある	17人	
全く思いつかない	15人	

### 【考察】

本学級の児童は、今までに生活科や第3学年社会科「わたしたちのまち」の単元で「まち探検」を行い、学習を積み重ねている。また、第4学年では、総合の学習で「地域安全マップ」に取り

組み、安全に関する街づくりの学習も行っている。そのため、アンケート調査からは、自然の豊かさやまちの安全性について、具体的に記述する児童が多く見られた。

しかし、日野市や平山地区のよさについて、「わからない」「全く思いつかない」答えた児童が、およそ3分の1程度おり、本研究のテーマである「郷土意識を高める」ことについては、今までの学習経験だけでは課題があることがわかる。また、日野市や平山地区が好きと答えた児童も、具体的な施設や歴史には意識が向いていない。「多摩動物公園」や「新選組」を理由に挙げた児童は、わずか3名である。本小単元では、掘立柱建物跡や平山遺跡の学習を通して、歴史的な観点から郷土意識を高めることができる実践に取り組んでいく。

## 8. 指導計画

### (1) 学習指導要領との関連

本小単元は学習指導要領社会第3学年及び第4学年の目標(3)、内容(6)のウに基づいて設定した。

#### 目標

(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようになる。

#### 内容

(6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えることができるようになる。

ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活

本小単元では、自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)、県(都、道、府)の学習を通して、社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的な資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようになることをねらいとしている。

掘立柱建物の写真や縄文土器の実物などを資料として活用し、必要な情報を読み取ったり、資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえたりしながら、観察や調査の仕方に基づいて、以下のような発問を設定しねらいに迫っていく。

観察や調査の仕方	発問
・ありのままに観察する。	・掘立柱建物や縄文土器の特徴とはなんだろう。 【大きさ、形、色などに着目】
・数や量に着目して調査する。	・縄文土器がたくさん見つかることから、どのようなことが考えられるだろう。 【数や量からその意味を考える。】
・観点に基づいて観察、調査する。	・縄文土器ができたことで、人々の生活はどのように豊かになったのだろう。 【生活の向上に着目する】

<ul style="list-style-type: none"> <li>他の事象と対比しながら観察、調査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄文土器と弥生土器では、どのような違いがあるだろう。</li> </ul> <p>【時間的な広がり着目する】</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>まわりの諸条件と関係付けて観察、調査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵国とは、どのような関係があったのだろう。</li> </ul> <p>【空間的な広がり、相互関係に着目】</p>

## (2) 単元の指導計画

(1) 平山遺跡について調べ、その歴史的な価値に気づき、それらを保護・活用する日野市の方々の願いについて考え、まとめることができる。

### (2) 単元指導計画 (全8時間)

過程	時	●ねらい	○主な活動・学習内容	・資料 ○評価 *備考
つかむ・学習問題作り	①	●学区内で、遺跡調査が行われていることを知り、関心をもつ。	○発掘調査している現場の写真から、場所や出土品などについて予想し、関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査している現場の写真</li> <li>○写真から予想をたて、平山遺跡について関心をもっている。</li> </ul>
	② ③	●平山遺跡の現場に行き、調査員のお話を聞く。	○インタビューを通して、平山遺跡について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビューを通して、平山遺跡について調べて、関心をもっている。</li> </ul> 
	④	●現場で調査したことをもとに学習課題を立てる。	○平山遺跡について予想を立て、クラスで学習課題をつくる。	○平山遺跡について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">平山地区では、どのようなものが発掘され、保護・活用されているのだろうか。</div>				
調べる	⑤	●掘立柱建物のあった頃の平山遺跡について調べる。 一役所があったところと庶民の住居を比較してみる。	○掘立柱建物と竪穴住居跡を比べ、昔この地域はどのようなところであったか調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵国の地図</li> <li>日野市の地形</li> <li>*挿絵から、その当時のようすについて考えることができるようにする。</li> <li>*平山遺跡についてふれ、次時への期待をもたせる。</li> <li>○平山地区の地形を理解し、そのよさについて考える。</li> </ul>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">問 平山地区から、掘立柱建物跡が見つかったことには、どのような意味があるのだろうか</div>	

⑥ 本時	●縄文土器などについて調べる。	出土品から、当時の道具について知り、その当時の様子について考える。  <b>問</b> 縄文土器ができたことによって生活はどのように変わったのだろうか。	*たくさんの出土品の現物を準備する。  ○出土品から、その当時の様子を想像している。
⑦	●調査している人の願いについて知る。	○インタビューから、調査している人々の願いについて知る。  <b>問</b> 生涯学習課の宮本さんが一番大切にしていることは、なんだろうか。	*平山季重まつりとの関連をはかる ○保護・活用している人々の願いを理解している。
まとめ	⑧ ●これまでの学習したことを作品にまとめる。	○学習の感想をかき、書いたことをカルタにまとめ、作品に仕上げる。	○遺跡が発掘される平山地区のよさを考え、他学年の友達に伝えようとしている。

### (3) 本時の指導

#### (1) 本時のねらい

平山地区で発掘された出土品について調べ、当時の生活の様子について想像する。

#### (2) 本時の展開

	主な学習活動	資料(・) 支援(☆) 評価(○)
導入 5分	○前時の振り返りをする。 C平山地区からは、たくさんの遺物が見つかっている。  ○土器の破片から、どのような大きさか想像する。 Cコップくらいの大きさではないか。 Cもっと大きいのもあって、バケツくらいではないか。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">平山地区の遺跡をくわしく調べ、その当時の生活の様子について考えよう</div>	・土器の破片  
展開 7分	【観察する着眼点をもつ】 ○平山地区から出た、4つの土器を時代が早い順に予想する。 C石器が一番古い時代ではないか。 Cこの土器は、大きいから比較的あたらしいのではないか。 Cこの土器は、厚さがうすいし、なめらかなカーブがあるから、技術が高くないとできないのではないか。	☆並び替えクイズを通して、出土品を観察する際の着眼点に気付くことができるようにする。 ・大きさ、形、色、模様、厚さ ☆白地図に発掘された場所や現在の建物の写真を示し、身近なものであると感じることができるようにする。

13分	<p>【土器や石器の特徴を調べる】</p> <p>○グループごとにその特徴について調べる。</p> <p>C触って見ると、思っていたよりもつるつるしていた。</p> <p>C近くで見ると、いろいろなもので模様をつけていることがわかった。</p> <p>Cもってみると、意外と重かった。</p> <p>C弥生時代になると、土器の厚さが薄くなって形もきれいだと思った。</p>	<p>☆児童が興味をもった出土品に触れ、意欲的に調べることができるように、時代ごとにブースをつくる。</p> <p>☆ルーペを置き、くわしく調べることができるようにする。</p> <p>☆ワークシートを活用し、たくさんの土器を調べるようにする。</p>
5分	<p>【調べてみて疑問に思ったことを発表する】</p> <p>Cどうやって、模様をつけたのだろう。</p> <p>Cこの大きい土器は、何に使っていたのだろう。</p> <p>C家全体は、どんな様子だったのだろう。</p> <p>C土器ができたことによって生活は、どのように便利になったのだろう。</p>	<p>☆調べる段階で、机間指導を行い、児童の興味が広がるような疑問を意図的に指示する。</p>
5分	<p>【縄文土器の生活での使われ方について考える。】</p> <p>C煮ることができるようになって、安全に食べることができるようになった。</p> <p>C早く、簡単に煮ることができるようになった。</p> <p>C保存をすることができるようになった。</p> <p>C料理のバリエーションが増えて、おいしく食べることができるようになった。</p>	<p>☆ペアで話し合い、全員が自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○平山地区で発掘された出土品について調べ、当時の生活での使われ方について考える。</p>
5分	<p>【保護活用に携わっている人の願いを知る。】</p> <p>○生涯学習課の宮本さんのお話を聞く。</p> <p>C遺跡から、昔のことを想像することって楽しんだな。</p> <p>C市の人が、大切な土器をしっかりと保管しているんだな。</p> <p>C今度、郷土資料館に行ってみようかな。</p>	
まとめ5分	<p>○学習感想をかく。</p> <p>C土器に実際に触れられて楽しかった。興味をもてた。</p> <p>C宮本さんの願いを聞いて、もっと日野市に興味をもたないといけないと感じた。</p>	

## 9. 協議会での意見

- ・平山地区から発掘された本物の土器や石器を、実際に見たり触れたりすることができ、児童は、大変興味・関心をもって調べていた。特に、大きな土器をもち上げ、その重さを実感できたとき、児童はとても喜んでいました。
- ・バリエーションに富んだ土器や石器を準備することで、時代ごとに比較ができ、児童の思考の深まりがあった。
- ・ゲストティーチャー（生涯学習課）の宮本さんと事前に何度も打ち合わせをすることにより、授業の流れは担任が行い、資料に関しての説明や児童の質問に対する回答はゲストティーチャーが行うという役割分担がよくできていた。



10. 本時で扱った資料



①【縄文土器（中期）】



②【縄文土器（中期～晩期）】



③【縄文石器（中期）】



④【縄文土器（晩期）】

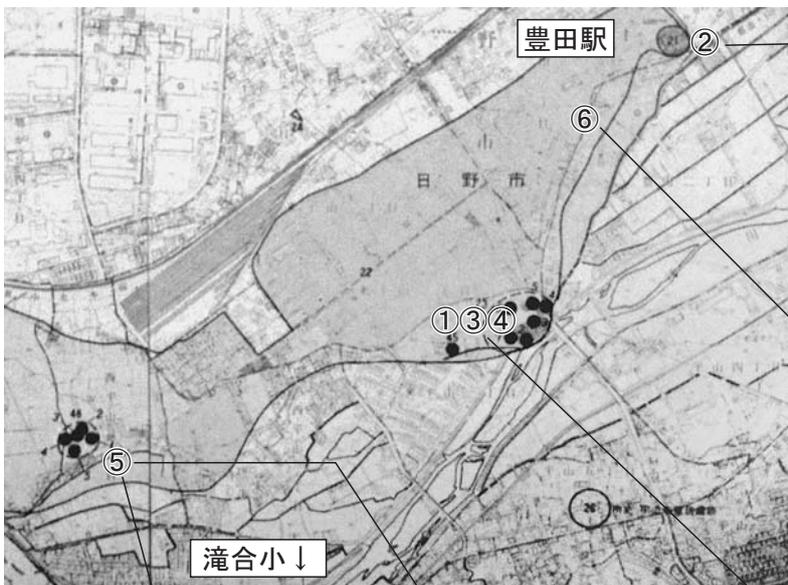


⑤【古墳時代の土器】



⑥【奈良～平安時代の土師器】

【遺跡が発掘された場所】



豊田駅南側



中央図書館



西平山3丁目付近からの眺望



西平山3丁目付近



大名淵公園

# 平山遺跡から出た出土品について調べよう

名前 \_\_\_\_\_

年 組 \_\_\_\_\_



縄文土器（中期）  
およそ4000年前



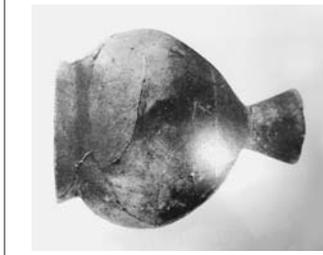

縄文石器（中期）  
およそ4000年前




縄文土器（中期～晩期）  
およそ4000年前




縄文土器（ぼん期）  
およそ3000年前

古墳時代の土器  
およそ1700年前




奈良～平安時代の土器  
およそ1200年前


【調べ感じた疑問】

・  
・  
・



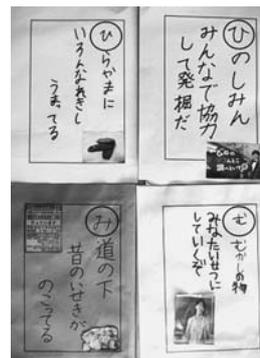
【答え】

【学習感想】

## 11. 成果と課題

### (1) 成果

「掘立柱建物跡」「平山遺跡」「平山季重」のことについて学習し、「平山地区は、1000年以上の歴史があって、日野市の中でも歴史が深いところである。」ということについて学んだ。小単元に入る前に行ったアンケートから大きな変容が見られ、自分たちの住んでいる日野市や平山地区の歴史に興味・関心をもったことが大きな成果である。それは、本小単元のまとめの活動として行った川柳作りに意欲的に取り組む児童の姿からも感じることができた。子供たちは、平山地区の歴史の深さや歴史について考えるおもしろさを伝えようと、言葉を一生懸命に選んでいた。



【児童が作った川柳】

本時では、ゲストティーチャー（生涯学習課の宮本さん）と連携を図ることができた。土器や石器に関する専門員とのつながりは、実物を準備したり教材研究をしたりする上で大切なことであった。また、H29調査中の「掘立柱建物跡」の最新情報を取り扱えたことは、土器や石器への興味・関心だけではなく、歴史を保護・活用する人々の工夫や努力に目を向けさせることへも有効であった。何度も打ち合わせを重ねる中で、郷土教育としてのねらいや社会科としての目標を共通理解し、ゲストティーチャーを効果的に活用することができた。

### (2) 課題

目を輝かせて土器や石器を調べたり、「掘立柱建物跡」に興味をもって楽しそうにその意味を考えたりする姿を見ると、第4学年に適した授業であったと考える。しかし、第4学年となると年間学習計画での位置づけが難しい。今回は、社会科の目標である「地域の特色を保護・活用する人々」との関連を図り、大単元「わたしたちの東京都」の中で時数の調整を図ったが、他の小単元（浅草、檜原村など）を少なくなった時数の中で指導するのは難しかった。対象学年やどの教科、もしくは総合的な学習の時間で取り上げるかを再度検討する必要がある。また、本時では、たくさんの土器や石器があったにも関わらず、調べた時間は、わずか15分程度であった。ゆとりをもった活動とするためにも、年間指導計画での位置づけが大切になる。

## 12. まとめ

「平山遺跡」の学習に、児童は、興味・関心をもって取り組むことができた。それは、自分たちが住んでいる地区の「平山遺跡」が子供たちにとって身近な教材だからである。またゲストティーチャーを招いたり実物を準備したりすることも大きかった。本実践は、郷土のよさに目を向けたり、第6学年の歴史単元への興味が広がったりすることも期待できる。年間指導計画での位置づけなど課題も多いが、改善をして、次年度へつなげていきたい。

### 参考文献

- 日野市平山遺跡（西平山地区）調査見学会資料
- 日野市史 通史編一 自然 原始・古代昭和63年3月31日 発行 日野市史編さん委員会
- 義経ゆかりの勇将平山末重 第7版
- 「よみがえる古代武蔵国府」
- 日野市の遺跡 発行日野市教育委員会 教育部 文化スポーツ課 H19. 3. 31

(滝合小学校 関根 夕紀)

## (2) 郷土の発展に尽くす

～多摩動物公園と林寿郎（初代園長）～

(第4学年 社会科)

### 1. 教材化の意図

#### (1) 教材化について

夢が丘小学校には開校以来、毎年多摩動物公園を訪れる「全校遠足」が、学校行事の一つにある。また、多摩動物公園は、夢が丘小学校の校区内に位置している。そのため、休日に家族や親せき、友達同士で、多摩動物公園に遊びに行くことも多い。児童たちにとって、多摩動物公園は、とても身近な施設であると言える。身近な存在であるがゆえに、児童にとっては、「多摩動物公園＝近所の動物園」という意識が大半を占めている。そのため、多摩動物公園のことを深く知ろうとか、詳しく調べたいと感じる機会はない。

そこで着目したのが、多摩動物公園である。多摩動物公園を調べていく中で、地元の方々をはじめとする多くの人々の努力や、願いが込められていることが分かった。また、たくさんのエピソードがあることが分かった。日野市はもとより、東京都民に親しまれ、世界からも注目される施設が、児童たちの目の前にあり、実は毎年訪れているという事実は、児童に大きなインパクトを与えられるのではないかと考えた。

本教材を通して、当時の日野市を中心とする人たちの思いや願いに触れさせ、これまでとは違う視点から多摩動物公園を見直し、地域の発展に尽くした人々の姿を通して、郷土に対する誇りと愛情を育てていきたい。

#### (2) 林寿郎と多摩動物公園

上野動物園の機能を緩和させることを主たる目的として、日野市の広大な多摩の自然の丘陵を活かした「動物公園」として誕生したのが、多摩動物公園である。当時の上野動物園の園長である古賀忠道のもと、設立の実質的中心者として尽力したのが、初代園長の林寿郎である。

多摩動物公園は、当時としては最新の無柵放養式の展示方法を採用し、日本及びアジアの動物を中心にした展示で開園した。この動物園には林寿郎が発案した要素が多く含まれている。林寿郎が訪問したケニアのサバンナで見た動物の群れを動物園でも見てもらおうと、「ライオンバス」を発案した。放し飼いのライオンをサファリ形式に観覧するバスは、当時としては世界初の試みであった。また、当時は動物と昆虫は分野が異なるものという認識があったが、林寿郎は昆虫の専門家である矢島稔を招き多摩動物公園内に「昆虫館」を開設した。

その後の多摩動物公園は、トキやキリンなど動物の保護・繁殖活動の他、国際交流の一環としてコアラ館が開設されるなど、動物を展示する娯楽・レジャー施設以外の多岐にわたる機能を兼ね備えた動物園となっている。

#### (3) 日野への誘致と京王電鉄の協力

戦後間もなく新宿区の戸山に新動物園設立計画がおこったが、その計画は頓挫した。その後、七生村（現在は日野市）の誘致活動（七生村役場の焼失により誘致に至る経緯は不明）と地主の人たちの土地提供により、「仮称・七生動物園」の設置が決まり、昭和33年5月、現在の日野市程久保に「多摩動物公園」が誕生した。

誘致に際して、資金的支援を担ったのが京王電鉄である。当時の京王電鉄は、日野市を走る京

王線沿線に「百草園」「高幡不動尊」「平山城址公園」の各駅を抱えていた。のちに誕生する「多摩テック」「よみうりランド（稲城市）」らと合わせ、日野を「大観光・レジャー地域」にしようとする計画があった。その目玉として、多摩動物公園も組み込もうとした。京王電鉄は、土地買収に伴う費用の他、開園にともなう園内施設の設置費用を援助するとともに、動物園来場者の移動手段として、昭和36年4月、高幡不動駅と多摩動物公園を結ぶ、多摩動物公園線（今の動物園線）を開通させた。

#### （４）多摩動物公園開園後の日野市

当時、多摩動物公園までの移動は、高幡不動尊駅からの小路を通っていた。そのため、とにかく移動が不便であった。しかし、動物公園線の他、東京都の都市計画などにより、交通環境はさらに充実していった。道路事情では、正門前を通る都道503号線や156号線が整備され多摩市とつながった。また、中央自動車道に国立府中インターチェンジが開通し、都心方面とのアクセスが可能になった。鉄道では、多摩市から立川・東大和市をつなぐ多摩都市モノレールが開通し、多摩地域における南北の移動が可能となった。

こうした交通網の発達には、中央大学や明星大学の移転・誘致を可能にした。また昭和40年代以降の宅地開発や、交通の利便性の向上などもあって、日野市とりわけ七生地域の人口は増加している。

## 2. 指導計画

### （１）学習指導要領との関わり

本小単元は学習指導要領社会第3学年及び第4学年の目標及び内容に基づいて設定した。

<p>目標</p> <p>（２）地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p> <p>内容</p> <p>（５）地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p>
---

### （２）小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①多摩動物公園や林寿郎の取組み、当時の日野の人々の思いに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	①多摩動物公園や林寿郎の取組み、当時の日野の人々の思いについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	①グラフや写真、当時の記録などの資料を活用して、多摩動物公園や林寿郎の取組み、当時の日野の人々の思いについて必要な情報を集め、読み取っている。	①地域の発展に尽くした多摩動物公園や林寿郎の取組み、当時の日野の人々の思いを理解している。

<p>②多摩動物公園の設立や、その役割について関心をもち、自分との関わりについて意欲的に考えようとしている。</p>	<p>②多摩動物公園の開設に関わった人々の思いから、多摩動物公園が果たした役割を考え適切に表現している。</p>	<p>②調べたことを、図や表、地図などにまとめている。</p>	<p>②地域の人々のレジャーや憩いの場として、重要な役割を果たしていることを理解している。</p>
--	--	---------------------------------	---

### (3) 教材構造図

#### <中心概念>

初代園長の林寿郎や、七生村・京王電鉄の人々の努力によって開設された「多摩動物公園」は、日野市や多摩地域のシンボルとなった。また、研究・教育活動も進めており、国内有数の動物園となった。「多摩動物公園」の開設以降、路線拡張や道路整備が進められ、日野市は他の地域と広く繋がるできるようになった。

#### <基本的事項>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・初代園長の林寿郎をはじめ、七生村や京王電鉄の人々の協力と苦心により、日野市に「多摩動物公園」が開設された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多摩動物公園」は、地域はもとより都民の憩いの場として長年親しまれてきた。また、道路や鉄道など交通網が整備され、広い地域から多くの人々が訪れた。</li> </ul>
--	---

#### <構成要素>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・七生村の人たちの誘致活動や京王電鉄の協力により、「七生動物公園」の設置が決まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の林寿郎は無柵放養式などこれまでにない動物園を、銀行や京王電鉄と協力しながら進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の来場者は25万人を超えての開園だったが、交通機関や施設の整備が追い付かないことなどから、その後来場者は減少する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林寿郎は、ライオンバスや昆虫館の設置を進めるとともに、京王電鉄の協力のもと多摩動物園線を開通させ、他地域からも多くの人が訪れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩動物公園は、飼育活動や教育活動にも力を注ぎ、日本有数の動物園となった。</li> </ul>
---	--	--	---	--

<素材>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・七生新報</li> <li>・上野と日野の位置関係</li> <li>・日野市の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林寿郎の回想録</li> <li>・多摩動物公園（文庫）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩動物公園の歩み</li> <li>・日野市の昭和回想録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さよならライオンバス</li> <li>・ライオンバス50年の歩み</li> <li>・林寿郎の回想録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩動物公園の歩み</li> <li>・キリンの輸出</li> <li>・全校遠足・解説員</li> <li>・日本初の昆虫館</li> </ul>
---	---	--	--	--

(4) 郷土教育を進めるにあたっての手立て

以下の2点に焦点を絞り、今回の授業を構成した。

○題材の選出

校区内にある「多摩動物公園」を題材に選ぶことで、より郷土の発展を身近に感じることができるようにした。

○資料の準備

資料やデータを精選して準備することで、多摩動物公園の様子を詳しく調べることができるようにした。

(5) 学習計画（11時間）

過程	●ねらい	○主な学習活動 ・使用する教材や資料	学習活動に即した評価規準
つかむ2	① ●林寿郎や多摩動物公園に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都内及び周辺の主だった施設の来場者を参考に、多摩動物公園開園時の来場者を予想する。</li> <li>○今から58年前に、多摩動物公園の設置を進めた初代園長の林寿郎を紹介する。</li> </ul>	<p>多摩動物公園の設立や、それに尽力した林寿郎のはたらきに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>【関－①】 多摩動物公園の設立に尽力した林寿郎のはたらきについて疑問を持ち、学習問題を見いだしている。</p> <p>【思－①】</p>
	② ●林寿郎をはじめとする多摩動物公園に関わった人々の取り組みについて、学習問題をもとに学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日野市と現在の東京都内の動物園の位置、開園当時の日野市や都内の交通機関などに目を向ける。</li> <li>○学習問題・学習計画を設定する。</li> </ul> <p>多摩動物公園に多くの人が集まる魅力や秘密を探ろう。</p>	<p>学習問題をもとに調べたい事柄を整理し、学習計画を立てている。また、学習問題に対する自分の予想を考えている。</p> <p>【思－①】</p>

調べる 4	③	●当時の上野動物園の様子と、誘致先に決まった当時の日野市の様子を調べる。	○当時の上野動物園の様子を調べる。 ○当時の日野市の様子を調べる。 ○『七生村報』を読み、七生の人たちの思いや願いを知る。	日野市と上野の位置関係や当時の日野市の様子、七生村の人々の思いを資料から読み取っている。  【技－①】
	④	●林寿郎は、どのように多摩動物公園を構想し、その実現のためにどのような苦労をしたのかを知る。	○林寿郎が思い描いた動物公園とはどのようなものだったのかを予想する。 ○林寿郎に関する資料を読み、どのようなことを行なったのかを調べる。 ・構想 ・突貫工事 ・他者への協力依頼 ・京王電鉄からの支援	林寿郎が動物公園開設に向けて取り組んだことや苦労した様子を資料から読み取っている。 【技－①】 多摩動物公園ができるまでの人々のはたらきや思いについて理解している。  【知－①】
	⑤	●開園当時の多摩動物公園の様子から、開園後の新たな課題があったことを理解する。	○動物公園ができた当時の様子を調べる。 ・開園当時のエピソード ・毎年の来場者数 ○動物公園にきた人たちの反応を、資料から読み取る。 ・動物公園ができたことへの喜び ・不便さや物足りなさへの不満	完成した動物公園の様子や来場者の反応を、資料から読み取っている。  【技－①】 動物公園が開園してからずっと順調だったわけではなく、課題が存在したことを理解している。  【知・理－①】
	⑥ 本時	●多摩動物公園の新たな課題に対して林寿郎はどのように取り組んだのかを調べる。	○開園後、来場者が減少して再び増加した理由について考える。 ○林寿郎は、来場者を増やすためにどのような工夫をしたのかを調べる。 ・チンパンジーと企業のタイアップ ・ライオンバス (無柵放養式・初のサファリ形式) ・昆虫館 (矢島稔氏の招へい、初の昆虫館) ・京王動物園線 (昭和36年開通)	林寿郎が動物公園の来場者を増やすためにした工夫を資料から調べる。  【技－①】

まとめる2	⑦ ⑧	●多摩動物公園を開設するまでの林寿郎の功績をまとめる。	○林寿郎の功績をまとめる。 ・計画 ・動物の搬送 ・ライオンバス設置 ・昆虫園設置 ○学習問題に対する自分の考えを書く。	林寿郎や多摩動物公園に関わった人々がどのような願いをもって取り組みをしてきたのかを考え、表現している。  【思－②】
ふかめる3	⑨	●今日までに多摩動物公園が果たしてきた文化的・教育的役割について考える。	○多摩動物公園が果たしてきた役割について調べる。 ・遠足で行く （教育的役割） ・動物公園の入場者の内訳 （東京都民とのつながり） ・トキの繁殖 （日本の他地域とのつながり） ・オーストラリア館 ・キリンの繁殖・輸出 （世界とのつながり）	多摩動物公園がこれまでに果たしてきた文化的・教育的役割について理解している。  【知－②】
	⑩ ⑪	●これまでの学習をもとに、多摩動物公園のミニパンフレットを作成する。	○これまで調べて分かったことをもとに、多摩動物公園のミニパンフレットを作る。	林寿郎の願いを人々が引き継ぎ、現在まで多摩動物公園が親しまれ続けていることについて自分の考えをもち、ミニパンフレットに表現している。  【思－②】

### 3. 本時の指導案

#### (1) 本時（第6時）のねらい

○開園後の多摩動物公園の新たな課題に対して、林寿郎さんや多摩動物公園はどのような取り組みをしていったのかを調べる。

#### (2) 本時の展開

展開	○主な学習活動	◇資料 ◆留意点 ☆評価
つかむ	<p>○前時の復習を行い、本時の課題をつかむ。            T：前の時間どんなことが、分かりましたか？            C：手作業で作っていった。            C：みんなの期待があった。            C：動物園ではなく、「人間園」を作ろうとした。</p> <p>○グラフから、多摩動物公園の来場者の変化を考える。            T：これはその後の多摩動物公園の来場者数を示したグラフです。この先来場者はどのようになっていったらう？            C：待ち遠しかったので、その後も人がたくさん増えた。            C：開園後、混乱があったので、人が来なくなり、減った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題：開園後來場者が減った時、林さんや多摩動物公園ではどのような取り組みをしていったのだろうか。</p> </div>	<p>◆本時に素早く入れるよう、2、3人の発言に止める。</p> <p>◇「来場者数の推移」（『10年のあゆみ（多摩動物公園）』）</p> <p>◆資料をブラックボックスにして掲示し、予想できるようにする。</p>
調べる	<p>○年表をもとに、来場者が減った原因を、資料から考える。            T：これは多摩動物公園に関する年表です。これをもとに来場者が減った理由を考えよう。            C：動物の種類が少なく、人気のある動物がいない。            C：京王線がまだ開通していなかったため、不便そう。            C：ライオンバスはまだできていない。</p> <p>○写真や資料をもとに、林さんの取組みを予想する。            T：写真は、林さんや多摩動物公園が取り組んだ方法です。これらの写真は、それぞれ何だと思おう？            C：ライオンバス。            C：昆虫館。            C：イヌ            C：動物園線</p>	<p>☆【技-①】</p> <p>◇年表「開園記念誌—主な出来事—」より抜粋</p> <p>☆【技-①】</p> <p>◇写真            「CMに出るイヌ」「動物園線」            「昆虫館」「ライオンバス」</p>



(写真：資料を提示している場面)

- T：これらと来場者の増加の関係は何だろう。  
 C：ライオンバスの人気が高かった。  
 C：京王線が開通したので、人が多く集まるようになった。  
 C：昆虫館ができた。  
 C：イヌは何だろう？  
 ○資料をもとに、林さんや多摩動物公園の取組みを調べ、話し合う。  
 T：分かったことをノートに書いておこう。  
 C：(資料の黙読) → (ノートに記録する)



(写真：資料に目を通す児童)

- T：分かったことを発表しよう。  
 C：京王電鉄や銀行が協力してくれたので動物園線が開通できた。  
 C：チンパンジーがCMにでて、人気が出た。  
 C：昆虫がたくさんいたので、昆虫館を作った。  
 C：苦勞の末、ライオンバスが完成した。

☆【技-①】

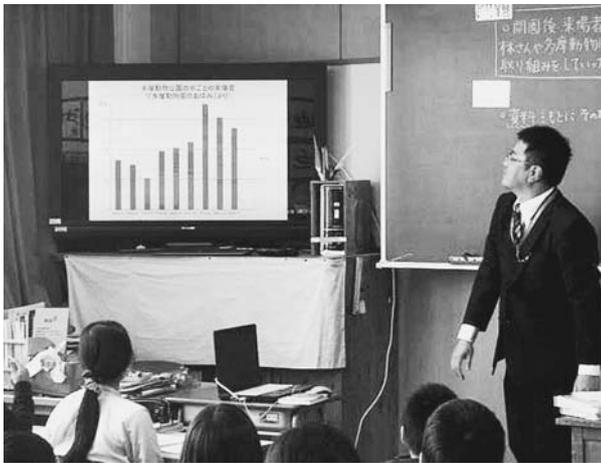
◇「ライオンバスの二十年（回想記）（『文芸春秋' 78.10』）を簡略化した文章

◆資料を読み取り、書く時間を確保する。

◇年表

年表「開園記念誌—主な出来事—」より抜粋

○資料から読み取った内容と年表を照らし合わせながら、来場者が増えた原因を探る。



(写真：資料と来場者の推移との照合をする場面)

T：では先ほどの写真を、年表をもとに時代順に並べるとどうなる。

C：イヌ（CM）→ライオンバス  
→動物園線→昆虫館)

T：2つが重なったね。それはいつだろう？

C：昭和39年。

T：では、開園後の動物公園来場者を見てみよう。

C：CMが始まり、来場者が増えた。

C：ライオンバス、動物園線ができて、100万人を突破した。

ま  
と  
め  
る

○本時のまとめを行う。

「開園後、林さんはライオンバスの開設や、昆虫館の創設など、当時は誰も取り組んでいないことに挑戦した。また、京王電鉄の協力により動物園線が開通した。こうして再び、来場者がたくさん集まるようになった。」

### (3) 本時で取り上げた資料

○写真



「ライオンバス」  
(※多摩動物公園HPより転載)

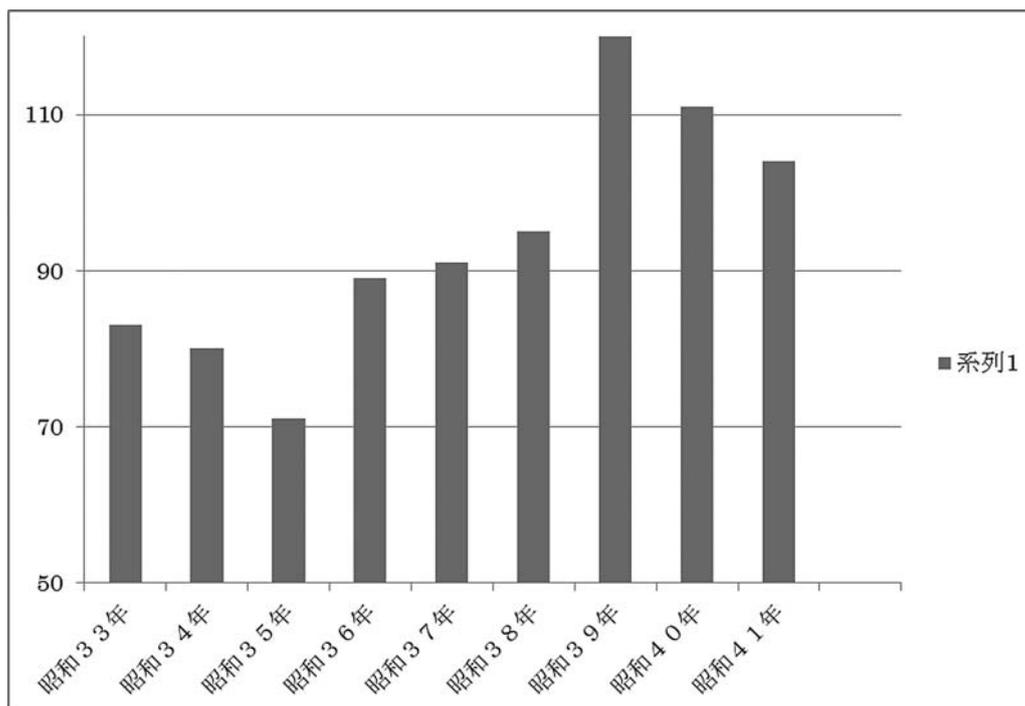


「京王動物園線（多摩動物公園駅）」  
(授業者が撮影)



「昆虫生態園（多摩動物公園）」  
(※多摩動物公園HPより転載)

○多摩動物公園の年間来場者の推移（『10年のあゆみ（多摩動物公園）』をもとに作成）



○開園10年までの主な出来事（資料をもとに授業者が作成）

開園10年までの主な出来事	
年代	主な出来事
昭和23年	第二の上野動物園をつくる計画が立つも、実現されず。
昭和26年 (1951)	七生村から、京王電鉄の協力を得て程久保の山林が、都に寄付される。 七生村報に「自然動物園設置準備進捗中」の記事がでる。
昭和31年 (1956)	1月、『多摩動物公園』が正式な名称として決まり、工事ははじまる。 動物が運ばれ始める。
昭和31年	ヤギ山、カモシカ山、ラクダ放牧場など動物舎や水道工事が行なわれる。
昭和33年 (1958)	開園までにオランウータンなどたくさんの動物が集められる。 5月5日、多摩動物公園が開園する。 大型のシカが柵から飛び出し、とらえ戻すのに1か月かかった。
昭和34年 (1959)	交通の不便さ、園内の整備不良が問題となる。 チンパンジーの芸がはじまる。
昭和35年	アフリカ産の動物を収容する土地を買取る。
昭和36年	昆虫実験飼育室ができ、昆虫の飼育実験がはじまる。
昭和37年	アフリカ園の一部が公開される。
昭和38年 (1963)	開園5周年を迎える。
昭和39年 (1964)	4月、京王動物園線が開通する。 5月、ライオン園（ライオンバス）が完成する。
昭和40年	日本で2番目のオランウータンが産まれた。
昭和41年 (1966)	昆虫園の新しい敷地にチョウの温室が完成し、冬でも見られるようになった。 林寿郎さん、多摩動物公園の職員を退職。
昭和42年 (1967)	日本で初めて、シロオリックス2頭が来園した。

○林寿郎さんの思い出（資料をもとに授業者が児童向けに要約したもの）

林寿郎さんの思い出
<p>多摩動物公園が誕生して20年。初代の園長としてなにか子供が成人式を迎えたようであらう。</p> <p>是非とも正門まで鉄道を敷いてもらう必要がある。・・・家族連れなどが来るから、鉄道は長らく儲かる仕組みになっている。(中略) 富士銀行支店長の寺島君は同級生で、お金を提供する約束ができていた。都の建設局も道路を作ることを約束してくれた。さらに京王帝都の三宮社長が大変乗り気だった。</p> <p>動物園は事前の仕組みを教えるところだというのが私の信念だ。秋も深まったある日、多摩丘陵を歩いたところ、ここの雑木林にはカブト虫もすみ、ホタルもいる。動物園にとって財産は昔からの自然に違いない。動物の中の約80%は昆虫である。</p> <p>開園当日、20万人を越える来場があったが、京王線のきっぷは売り切れ、お客様は中央線の立川まで歩かされた。「もう二度と来るもんか」と怒る小学生やハイヒールで園内の砂利道を歩く娘さんの痛々しい姿をみながら、ほっとしたことを覚えている。</p> <p>ところが開園後、ぱったり客が来なくなった。せっかく協力してもらったのに客が来ないのでは、京王帝都に申し訳ない。あれこれ考えた末チンパンジーに芸を仕込んだ。上野ではゾウとチンパンジーが人気を二分していた。このチンパンジーが、パヤリースのテレビコマーシャルに出演した。おかげで多摩動物公園の宣伝になった。</p> <p>苦労といえば、日玉商品の「ライオンバス」にもごたごたがあった。東アフリカの大草原には、自動車が集まりそのそばには数等のライオンが寝そべっていた。観光客はオープンカーで写真を撮っていた。私は多摩でもこれを実現しようとかんがえていた。</p> <p>ライオンはよほどの空腹でない限り、人間を襲うことはない。おとなしすぎるのではおもしろくないので天井にエサをつけて与えるようにしてはどうかと考えたが、「窓ガラスが割れたらどうする」「ライオンが飛び乗ったとき、おばあさんが心臓まひをおこしたらどうする」「火事になったらどうする」などの反対があった。「ライオンバスは交通機関ではなく、遊具です」と頑張った。さんざん反対されながらも、「車内を燃えない材料で作る、ガソリンではなく電気自動車なら」ということで、やっと許可してもらえた。</p> <p>動物園に完成ということはありませんが、ふりかえってみると計画倒れになったことばかりである。</p> <p>『ライオンバスの二十年』(文芸春秋 '78.10) 林寿郎</p>

## 4 終わりに

### (1) 成果

教材となる多摩動物公園をすべての児童が知っていたことで、同じスタートラインから授業を構成・展開することができた。日頃、児童たちがとらえていることとは違う視点で多摩動物公園をとらえ直すことで、地元にある誇るべき施設であるという思いが芽生え、地元に対する意識に変化があった。

また、今回使用した資料の多くが、実際に見たことのある写真や知っている地名を読み取ることができるものだったことから、資料を活用しながら授業に参加することができた。また、当時の資料をそのままに配布して読む一方、旧漢字や難しい語句を平易な言葉に直した資料も活用したことで、資料に対して正対することができた。

さらには、多摩動物公園の開園までの苦労やエピソード、林寿郎の取り組み、その後の多摩動物公園の発展が、児童の関心・興味を見出すのに十分な内容であった。そのため、単元を通して児童の意欲を高く維持したまま、学習を進めることができた。

### (2) 課題

今回本時では、写真、グラフ、文字資料、年表と多くの資料を取り扱った。資料が多岐にわたった分、児童はどの資料をもとに学習課題に迫っていくかに、苦労していた様子がうかがえた。資料の精選を行うとともに前時での既習事項を活用させることで、一授業あたりの資料を減らすとともに各授業の学習内容の関連性をもたせることで、より資料を効果的に活用することができ、児童の思考力も高まるのではないかと考える。

また、昭和30年前後のエピソードであることから、白黒で様子が不鮮明な写真や、文字中心の資料が多く、児童が読み取り活用するという点において、現物をそのまま児童に提示するというわけにはいかない資料が多かった。今回、簡略化をして資料を児童に提示したが、児童が活用しうる資料への再編成をどのように行っていくかということは、検討の余地がある。

#### 参考文献

- 『多摩動物公園』(中川士郎 著/東京都公園緑地部監修・東京公園文庫6)
- 『多摩動物公園10年のあゆみ』(東京都多摩動物公園編/東京都多摩動物公園)
- 『多摩動物公園開園20周年』(東京都多摩動物公園編/東京都多摩動物公園)
- 『はばたけ! 未来へ 30年のあゆみ 多摩動物公園』  
(東京都多摩動物公園編/東京都多摩動物公園)
- 『多摩動物公園50年史』(東京都編/東京都)
- 『多摩動物公園の構想 林寿郎/文』(「武蔵野」299号より)
- 『多摩動物公園建設回想録 牧野泰彦/文』(「武蔵野」43巻2号より)
- 『らいおんバスの二十年 林寿郎/文』(「文芸春秋」1978年10号より)
- 『七生村報』(昭和26年8月17日)

(夢が丘小学校 永吉 智洋)

### (3) ぼくたちわたしたちが住んでいる日野がだいすき！

～地域にゆかりのある“平山季重”について知り、自分の住む町に興味をもち、好きになろう～

(幼稚園 年少)

#### 1. 教材化の意図

幼児にとって幼稚園は、初めての集団生活をしていく場であり、家族以外の人に出会い、友達や教師と一緒に遊んだり、新しいモノや素材と出会い、見たり触れたり感じたりしていくことで日々、様々な刺激を受けながら過ごしているところである。また、園外活動を通して、自然に触れたりいつもと違う環境の中で新しい発見をしたりすることもできる場所である。

新幼稚園教育要領では、環境領域の中に「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」とある。また、ひのっ子教育基本方針3には「郷土及び日本の伝統・文化を学び、守っていくとともに、ふるさと日野を愛し、社会とかかわるひのっ子を育てる」とある。4歳児ではまず、日野市や地域の平山に興味をもち、好きになることが大切であると考えた。そこで、自分たちの住んでいる町や平山季重について具体的に伝えたり、実際に地域の川や公園などに出かけて直接体験につながる園外保育を通して、地域を身近に感じたり触れたりする機会を作っていきたいと考えた。

#### 2. 指導計画

##### (1) 幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領では、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域に分かれてねらいや内容が記されている。これらは相互に関連をもちながら、総合的な学びとなるものである。今回は、実際に園外に出て自然や地域の人に触れたりする機会を設けたり、自分たちの住む町について思いを伝えようとしたり、歌で表現する活動を取り入れたりしている。1つの領域におさまるものではなく、5つの領域全てが総合的に関連している。

##### (2) 活動のねらい

- 自分たちの住む町について興味をもち、“いいな” “好きだな” と感じる。
- 平山季重のことを知り、親しみの気持ちをもつ。

##### (3) 活動の流れ

- 自分たちの住む町について興味をもち、“いいな” “好きだな” と感じる。
  - ・平山城址公園で、自然に触れながら遊ぶことを楽しもう。(5月)
  - ・自分たちの住む町がどんな町であるかを知ろう。(9月)
  - ・日野市がどんな町であるかを知り、親しみの気持ちをもとう。(11月)
  - ・自分の家がどこにあるか、お母さんと一緒に地図に貼ろう。(11月)
- 平山季重のことを知り、親しみの気持ちをもつ
  - ・平山季重のことを知り、お祭りに参加しよう。(10月)



- ・平山季重に親しみをもち、どのような人であったか想像してみよう。(11月)
- ・「季重さんは何しているのかな」の絵を描こう。(11月)
- ・季重さんの歌「あいたかったな すえしげさん」をみんなで歌おう。(12月)

### 3. 活動内容

○自分の住んでいる町について興味をもち、“いいな” “好きだな” と感じる。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見ながら「ここはどこでしょう」クイズを見る。</li> <li>・クイズで見た場所が「平山」の町であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育で出かけたことのある場所や知っている公園、小学校等の写真をクイズ形式にして見せて、子どもが興味をもてるようにする。</li> <li>・クイズで出てきた場所や幼稚園が「平山」という場所であることを伝え、公園、駅、幼稚園の番地など、身近に「ひらやま」とつくものが多くあることに気づけるように伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここ知っている！みんなで行ったことあるよね。」</li> <li>・「となりの沢田公園だ。僕ここで遊ぶよ！」</li> </ul> 
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の形をしている地図をみて、自分たちの住む日野市であることを知る。</li> <li>・幼稚園や今まで行ったことのある場所に印を貼る。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野の写真と、他市の写真を見て違うところに気づく。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家を描き、保護者と一緒に地図に家を貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が分かりやすいように、大きな地図を用意し、幼稚園や園外保育で出かけた場所がどこにあるのか、クイズにしながら、地図に貼れるようにして、興味をもてるようにする。</li> <li>・日野市の写真と、自然豊かな日野市とは対照的な他市の写真を用意し、視覚的に分かりやすくする。</li> <li>・気づいたこと、思ったことに共感していく。</li> <li>・保護者に活動の意図を事前に話しておき、協力してもらおう。保護者にも日野市について知ってもらえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「犬だ！」</li> <li>・「狼だよ！」</li> <li>・「平山城址公園はどこにあるかな」と探している友達に対して、「きっとここだよ！」「幼稚園の近くじゃない？」と助けてあげたり、みんなで一緒に考えたりしようとしていた。</li> <li>・「まだ貼っていないところもあるよ。もっともっと私たちが貼ってあげたらいいんじゃない？」</li> <li>・「川があるね。」</li> <li>・「木がいっぱいあるよ。森みたい。もう一つの方は少ないね。」と言って、写真を比較して日野市の写真の中に自然がたくさんあることに気づいた。</li> </ul> 

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの住んでいる町の好きなどころを話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう一度比較対照できるものを出しながら、日野市にはどんなものがあるか振り返られるようにする。</li> <li>それぞれの思いに共感する。また、幼児が思いを話した際に、やや伝わりにくい時は、教師が補完してあげるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「木がいっぱいあるからいいね。」</li> <li>「幼稚園があるから好きだな。」</li> <li>「公園で遊ぶのが楽しいよ。」</li> </ul>
-----	--	---	---

○平山季重について知り、親しみの気持ちをもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>平山季重の写真を見て、この町に昔住んでいた人であることを知る。</li> <li>強くて優しい人であったこと、この町を守った人であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真とイラストを用いて、平山季重のことを話す。</li> <li>運動会でイメージをもっている「ヒーロー（悪者を倒すために体を強くしたり、困っている人を助けてあげられたりする優しいヒーロー）」に例えて話をし、イメージをもちやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒーローみたいに強くて優しい人であったことを知ると、イメージがもてたようで、「僕たちと一緒にだね!」「季重さんもこの町を守ったんだ」と興味をもちはじめた。</li> <li>「今はもういないのか。昔住んでいたんだね。」</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>平山季重がどんな人であったか想像して、自分なりに思ったことを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平山季重がどんな人であったか写真を見たり話をしたりして、4歳児なりにイメージがもちやすくなるようにする。</li> <li>平山季重がどんな人であったかと思うか聞く。子どもの思いに共感したり、クラス全体で共有したりできるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を見て振り返り、「季重さんは、この町を守った人なんだよね。」</li> <li>「森とかも守ったんだね。」</li> <li>「守ったってことはとってもかっこいいね!」</li> <li>「僕たちみたいに優しい人だったよね、きっと!」</li> <li>それぞれが思ったことや、友達の話聞いて感じたことを伝えようとしていた。</li> <li>平山季重が描かれている絵をみて「僕も季重さんの絵描きたいな」</li> <li>「私、自分の自由帳に描いてみる!」</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>平山季重がどんなことをしていたか想像しながら絵を描く。</li> </ul>  <div data-bbox="288 1912 580 2007" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">       船に乗って旅をしていたと思うよ!     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平山季重がどんなことをしていたか、いくつか見本を見せたり、例えを出したりして、「こんなこともしていたかもしれない」とイメージをもちやすくする。</li> <li>人物画ではなく、幼児が描きやすいように「どんなことをしていたのか」など、何をしていたか想像しながら描けるように声をかけていく。</li> <li>イメージして楽しそうに描いている姿を受け止め、子どもの思いに共感していく。</li> <li>描いた絵をみんなの前で見せていく。</li> </ul>	<div data-bbox="1038 1518 1378 1608" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">       転がしドッチボールして遊んでいたんだよ!     </div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>「季重さんが車に乗っているよ」</li> <li>「私のもみんなに見せてあげたい」</li> </ul>

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナルの歌を歌い、平山季重に親しみをもつ。</li> </ul> <div data-bbox="272 304 612 613" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>数日にわたって一緒に歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園の歌はあるが、平山季重に歌があるか話をして、「歌を作りたい」と興味をもてるようにする。</li> <li>運動会の歌を作ったのは園長先生であることを話し、一緒に作ってほしいという思いを伝えられるようにする。</li> <li>園長先生に子どもたちから出た思いを基に曲を作ってもらおう。</li> <li>自分たちが思ったこと、感じたことを歌で表現できる喜びを味わっていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私たちが歌を作ろうよ」</li> <li>園長が歌を作ってくれたことがあると知ると、「園長先生にお願いしに行こう」</li> <li>「私言いに行って来る！」</li> <li>「すえしげさんの歌を作ってください」</li> </ul> <div data-bbox="1035 461 1378 696" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>犬のポーズや手をあげる振付をしながら歌うことを楽しんでいる。</li> <li>「また歌いたい！」</li> </ul>
----------------	---	---	--

#### 4. 成果と課題

##### (1) 成果

- 1学期から平山城址公園へ園外保育で出かけたり、平山季重祭りに参加して、甲冑を身にまとった平山季重達を近くで見たりするなど、子どもたちが親しみをもてるように意識しながら継続して進めてこられたので、子どもたちの興味や関心は一時的なものではなく、より親しみをもつことにつながった。
- 活動していく中で、子どもたちが思いついた「地図に貼りたい」「季重さんの絵を描きたい」という思いを活動に取り入れていくことができたので、子どもが興味をもって楽しみながら活動に参加でき、日野市や平山季重に親しみの気持ちをもつことができた。
- 子どもだけでなく、保護者も一緒に活動を行ったことにより、保護者にも日野市に関心をもってもらえることができた。

##### (2) 課題

- 活動を進めるに当たり、4歳児の発達を踏まえることよりも、やらなくてはいけないと、とられすぎているところがある。特に、平山季重の絵を描く際には、子どもの描きたいという気持ちに配慮しようと、とにかく人物を描こうとしていた。しかし、先生方に季重をより身近に感じられるようにどんなことをしていたか想像してから楽しく絵を描く方法を取り入れた方がいいと助言していただき、楽しく描くことできた。やらなくては、という気持ちが強くなりすぎないように十分考え、4歳児がイメージや親しみをもちやすくするための活動の進め方を工夫する必要があることが分かった。
- 今回の実践を通して、自分たちの住んでいる町や平山季重に興味をもつことができたので、今後も継続的に話題にしたり、取り上げたりしていく。日野市には他にも宝泉寺のもちあげ観音の昔話や、地域ごとに昔から伝わる話などもあるので、より自分たちの町に親しみをもてるようにする。また、5歳児になったときには、教師だけの話ではなく、地域の方から直接話を聞いたり、実際に平山季重の神社に足を運んだりするなど、より親しみをもてるようにしていく。

(第二幼稚園 井上 晴香)

## (4) 高幡不動の不思議な話から、自分たちの住むまち日野に親しみをもつ (幼稚園 年長)

### 1. 教材化の意図

高幡不動尊(金剛寺)は、古来関東三大不動の一つに挙げられ、「高幡のお不動さん」と呼ばれて信仰を集め人々に親しまれてきた。毎月28日の縁日をはじめ、節分会、萬灯会などの年中行事や、あじさい祭り、紅葉祭りなどの催しが行われており、一年を通して多くの参拝客が訪れている。

第四幼稚園に通っている園児にとっても、お宮参りや七五三、初詣などの機会に訪れることのできる場所である。また、毎年6月上旬より行われている『あじさい祭り』には、年長児が自然に触れて季節を感じたり、高幡不動尊の由来や言い伝えを知り地域に親しみをもったりすることを目的に高幡不動尊に出かけ、重要文化財や紫陽花などを見ながら境内を散策させて頂いており、子どもたちにとって身近なお寺であるといえる。

そこで今回は、高幡不動尊の由来や言い伝えを聞いたり、昔から親しまれている年中行事に触れて親しみをもつことで、高幡不動尊を身近に感じ、たくさんの人に愛されている場所であることに気づき、自分たちの住む『日野』の良さや親しみを感じられるようにしていきたいと考えた。

### 2. 指導計画

#### (1) 幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領には、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を幼児の発達の側面から、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域に分け、ねらいや内容が明記されている。これらは相互に関連をもちながら、総合的な学びとなるものである。

今回は、実際に高幡不動尊を訪れて実物を確認しながら言い伝えを聞く機会や、地域の人に触れたりする機会を設けたり、自分の経験を振り返って友達と伝え合ったり、新しく得た知識を実際に体験したりする活動を取り入れていくことにした。

#### (2) 子どもたちの実態

- ・自分たちの住む日野に高幡不動尊があることを知っており、初詣や七五三などの機会に家族で訪れたことがある子もいる。
- ・絵本の読み聞かせや紙芝居等のお話を聞くことを楽しんだり、誕生会のプレゼントになる絵本のお話作りを教師とともに喜んで取り組んだりする姿がある。
- ・こどもの日や七夕、節分、ひなまつりなど、一年をとおして日本の伝統行事に触れる機会があり、由来を知ったり行事食を食べたりしている。
- ・子どもたちの祖父母世代が日野に住んでいる家庭と、子どもたちの親世代から日野に移り住み、日野についてよく知らない家庭がある。

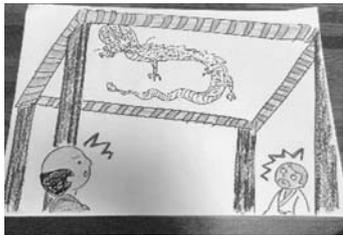
### (3) 活動のねらい

- 高幡不動尊にまつわる昔話を聞いたり実際に訪れたりする中で、高幡不動尊に興味関心をもつ。
- 高幡不動尊について知ることや多くの人に愛されている場所だと知ることを通して、自分たちの住む日野に親しみの気持ちをもつ。

### 3. 活動内容

- ① 高幡不動尊に興味をもつ。
- ② 高幡不動尊について知る。
- ③ 高幡不動尊や自分たちの住む日野に親しみの気持ちをもつ。

#### 活動内容① 高幡不動尊に興味をもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市や高幡不動尊について知っていることを話す。</li> <li>・高幡不動尊にまつわる不思議な話（鳴り龍）を聞く。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住んでいる町の名前や町にどんな場所があるか訪問し、日野に興味をもたせる。</li> <li>・高幡不動尊にどのような時に訪れたことがあるかを聞き、身近な場所だと感じられるようにする。</li> <li>・紙芝居にしてストーリーが伝わりやすいようにする。</li> <li>・園外保育への期待をもたせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の場所や近くのもの、よく出かける場所を答える。</li> <li>・七五三の写真撮影や初詣などで高幡不動尊に行ったことがあると答える。「着物をきて家族と行ったことがある。」</li> <li>・紙芝居に興味をもって見る。「早く高幡不動尊に行ってみたい！」</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高幡不動尊へ出かけ、重要文化財等を見たり触れたりしながら由来や言い伝えを聞く。</li> <li>・参拝客との触れ合いを通して、多くの人に愛されている場所であることを知る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしにくい言葉や情景は教師が噛み砕いて説明し、具体的なイメージがもてるようにする。</li> <li>・気づきや感じたことに共感したり、友達同士伝え合えるよう促したりする。</li> <li>・参拝客や観光客と挨拶を交わしたり共感したりとふれあいがもてるように教師が率先して動いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議に思ったことや面白く感じたこと等を友達や教師に伝え、共感し合っていた。「ずっと昔からある木（松）なんだね。」</li> <li>・観光客の方と挨拶を交わしたり、お気に入りのアジサイの名前を知らせ合ったりする。</li> </ul> 

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊を訪れてみて、感じたことを話したり友達感想を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発言の中から、新しく知ったこと、気付いたことなどを取り上げ、高幡不動尊への興味関心をクラスに広げていく。</li> <li>たくさんの人が訪れていたことに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鳴り龍の声が聞こえてびっくりしたよ。」</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>「アジサイがきれいだった。」</li> <li>「いろんな人が来ていたね。」</li> </ul>
------------	--	---	---

活動内容② 高幡不動尊について知る。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
<p>導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊に園外保育で出かけた時のことを思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚教材を用いて、思い出しやすくする。</li> </ul>	<p>「高幡不動だ！」「龍の声が聞こえたよね。」</p>
<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊での節分行事について知ったり、節分の由来を聞いたりする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>豆煎りの理由や「鬼は外」と言わない理由などをわかりやすく伝えていく。</li> <li>実際の様子ができるよう、写真を見せながら行う。 (『豆煎り式』、『節分会』)</li> </ul>	<p>「鬼は外って言わないの？」 「鬼が来ちゃうよ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仏様には悪いものもよいものに変える力があることを伝えると「すごいねー」と感心した様子があった。 「それ(豆撒き式)行ったことある！」</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知っている節分行事との違いについてどう感じたか、伝え合う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが行っている豆まきの違いについて、不思議に思ったり面白いと感じたりしたこと共感し、高幡不動尊に興味をもてるよう促す。</li> </ul>	<p>「私たちの幼稚園では『鬼は外』って言わないと、鬼がきちゃうね。」</p> 

活動内容③ 高幡不動尊や自分たちの住む日野に親しみの気持ちをもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
<p>導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊について教わったことや知っていることを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊で行われている行事や自分たちが出かけた時の写真を提示し、振り返りやすくする。</li> </ul>	<p>「山アジサイが咲いていたよ！」 「手を合わせて、お願いしたんだよね。」</p>

<p>展 開</p>	<p>・高幡不動尊では一年を通していろいろな行事が行われていることや、多くの人を訪れる場所であると気付く。</p> 	<p>・高幡不動尊で行われている年中行事のうちいくつかを挙げ、表にして知らせることで、たくさんあることに気づかせる。 ・高幡不動尊に出かけた時のことや各家庭で出かけた時の様子を思い出せるよう働きかける。</p>	<p>「こんなにいっぱいあるんだね。」「新選組祭り、行ったことあるよ！」 ・初詣や七五三詣などは、行ったことがある子が多く、子どもたちから声があがっていた。 「豆まきのとき、たくさん人がいたよ。」「みんなで行った時も（人が）いっぱいいたね。」</p>
<p>ま と め</p>	<p>・高幡不動尊が自分たちの住んでいる日野にあることを確認する。</p>	<p>・高幡不動尊が日野にあることを振り返って確認し、より日野に親しみや関心をもてるようにしていく。</p>	<p>「みんなの住んでいる日野には、いいものがあって嬉しいね。」 「高幡不動尊にまた行きたいな。」</p>

#### 4. 成果と課題

##### (1) 成果

○実際に高幡不動尊を訪れて、重要文化財や言い伝えのあるもの等を間近で見たり触れたりしながら、言い伝えやそれにまつわる話を聞くことができたことで、高幡不動尊の歴史を感じたり、昔をイメージしたりすることができたと思われる。また、子ども達にとって「行ったことのある場所」「知っている場所」程度に感じていた高幡不動尊だったが、昔話を聞いたりいろいろな行事について知ったりすることで、高幡不動尊がより親しみのある場所になった様子が見られた。

##### (2) 課題

○実際に高幡不動尊を訪れることができたのは、アジサイ祭りの時の一回のみになってしまい、他は写真や紙芝居などを用いての活動となっていた。実際にいろいろな行事の様子を見たり感じたり等、実体験を通して学べるように計画していきたい。  
○今回取り上げた行事が、アジサイ祭り と 節分行事の二つに限られてしまった。他にも色々な行事を取り上げれば、継続的に高幡不動尊に興味や関心をもったり、親しみの気持ちが持てたりしたのではないかと考えられる。

##### 参考文献

- 「日野の昔話シリーズ」
- 「日野の昔話百選」

(第四幼稚園 杉山 由佳)

## (5) 高幡不動とお不動様

(第3学年 社会科)

### 1. テーマ

高幡不動尊のお祭りや年中行事について調べることで、昔から伝わっている伝統行事を知ることや、自分たちが住んでいる地域に親しみをもつ。

### 2. テーマ設定の理由

高幡不動尊には昔から受け継がれてきた祭りなどの年中行事や文化財などがあり、それらが身近な地域の歴史を伝えるものであることに気付くとともに、それらを通して人々が地域のくらしをよりよくしようと願い、工夫・努力してきたことを理解させたい。また、歴史を伝えるものを見つけ出したり、調べたりすることを通して、人々がどのような願いや思いをもって暮らしていたかについて考えさせたい。

### 3. 教材化の意図

3年生になり、1学期は日野市の様子について白地図を使って学んだ。また、実際に地域をまわり、くらしをささえる施設やくらしを豊かにする施設を訪ね、見たり聞いたりしたことをガイドマップにまとめる活動を行った。2学期は、日野市にみられる「生産」や「販売」の仕事について学び、3学期は「日野市のむかし」について学ぶ。

「日野市のむかし」について学ぶにあたっては、「かつやくした人をたずねて」「むかしから受けついできたものやこと」を中心に学習を進めていく。高幡不動尊は潤徳小学校の学区内にあり、駅にも近い。年末年始や年中行事に家族で行ったり、授業の中で町探検にも行く身近な存在であったりすることから、児童が日野市について愛着をもつきっかけになるのではないかと考えた。

#### (1) 年中行事（児童がよく行く主な行事）

1月元日・2日・3日	元朝祈願大護摩修行
2月 節分	豆撒式・だるま市
5月第2日曜日	ひの新選組まつり
6月初旬～7月初旬	あじさいまつり
10月28日～11月17日	菊まつり
11月中	七五三詣
11月28日～11月30日	もみじまつり
12月31日	大晦日・除夜の鐘供養

#### (2) 毎月の行事・教室

15日	お焚き上げ
21日	宗祖弘法大師ご命日・月例写経会
24日	千体地藏尊月例回向
28日	お不動様のご縁日 参道歩行者天国
第1火曜日	俳画教室

第2日曜日	リサイクル市
第3日曜日	ござれ市（がらくた市）
毎週	茶道教室・いけばな教室・空手教室

○写真コンクール

### （3）毎日の行事

- 交通安全祈願
- 護摩修行

### （4）高幡と土方歳三

新選組土方歳三の菩提寺高幡山金剛寺には、近藤勇・土方歳三の碑や、土方歳三の銅像、大日堂には土方歳三の位牌や新選組隊士慰霊の代位牌など、また奥殿では歳三の書簡ほか多くの新選組資料が展示されている。

### （5）高幡不動尊の指定文化財

高幡不動尊は安永八年の大火で数多くの寺宝を消失したが、不動三尊像・大日如来像・歓喜天像・菩薩像三軀などの平安古仏をはじめ、約二万点の貴重な文化財・寺宝を今に伝えている。

## 4. 指導計画

### （1）単元のねらい

- 高幡不動尊には昔からうけつがれてきた年中行事や毎日の行事、文化財などがあり、それらが身近な地域の歴史を伝えるものであることに気付くとともに、意欲的に調べようとする。
- 高幡不動尊の年中行事を通して人々が地域のくらしをよりよくしようと願い、工夫・努力してきたことや地域の文化を担っていることがわかる。
- 歴史を伝えるものを見つけ出したり、調べたりすることを通して、人々がどのような願いや思いをもって暮らしていたかについて考える。

### （2）単元の指導計画（全5時間）

	活動内容	◇資料 ☆評価
つかむ (1時間)	<p>○高幡不動尊に関心を持ち、伝統や文化をたずねて高幡不動尊に多くの人々が集まることに気付く。</p> <p>・高幡不動尊に行った経験を思い出し、多くの年中行事や毎日の行事、毎週行われている教室があることを知り、学習問題を作る。</p>	<p>◇年中行事の写真から、四季を通じて多くの年中行事が行われていることを伝える。</p> <p>☆高幡不動尊について関心を持ち、学習課題や予想を考え表現している。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">高幡不動尊にたくさんの人が訪れるのはどうしてだろう。</div>	

調べる (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「高幡不動尊ガイドブック」作りの計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を調べるか 調べ方</li> <li>・まとめ方</li> </ul> </li> <li>○高幡不動尊で行われている年中行事や毎週行われている教室について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高幡不動尊に行って不動尊内を散策し、昔からある文化財について知ったり、年中行事が行われている場所の確認をしたりする。</li> <li>・事務所に行って、働いている人にインタビューし、年中行事や毎週行われている教室について聞く。</li> <li>・高幡不動尊に来ている人に、訪れた理由や訪れたことのある年中行事についてインタビューする。</li> <li>・家族の人や近所の人に聞く。</li> <li>・図書館の本やインターネットで調べる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇写真</li> <li>◇パンフレット</li> <li>◇ダウンロードした資料</li> <li>□高幡不動尊の魅力に触れることができるようにする。</li> <li>☆インタビューしたことや写真、さまざまな資料をもとに自分なりに「高幡不動尊パンフレット」を作ろうとしているか。</li> <li>☆高幡不動尊のよさを考え、作品に表現しているか。</li> </ul>
まとめる (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「高幡不動尊ガイドブック」の発表会をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、高幡不動尊に多くの人が訪れる秘密について、発見したことを発表する。</li> </ul> </li> </ul>	

## 5. 本時の指導

### (1) 本時のねらい

高幡不動尊に関心をもち、伝統や文化をたずねて高幡不動尊に多くの人が集まることに気付く。

### (2) 本時の展開 (1/5)

	主な学習展開・内容	□指導上の留意点☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高幡不動尊の写真から、分かることを発表し合い、本時の学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの人</li> <li>・山門</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">           高幡不動尊にたくさんの人が訪れるのは、どうしてだろう。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□高幡不動尊に行った経験や知っていることを発表させる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あじさい祭りや高幡不動尊の写真から、高幡不動尊に人々が訪れる理由を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な建造物があるから。</li> <li>・昔からあるお土産物を売っているから。</li> <li>・昔から伝わる行事がたくさんあるから。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□事前に高幡不動尊のパンフレットや日野市の広報等を集めておく。</li> <li>□高幡不動駅の改修前と後の駅周辺の様子がわかる写真を集めておく。</li> </ul>

展 開	<p>○ 2枚の写真で20～30年前と今の高幡不動駅周辺を比べ、気が付いたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅が新しくなって、モノレールの駅もできた。</li> <li>・ 京王線とモノレールをつないでいる道ぞいに新しいお店ができた。</li> <li>・ 駅周辺に新しいビルが多くなって、マンションも増えた。</li> </ul>	<p>□ 高幡不動駅改修前後での違いについて見つけたことをたくさん発表させるようにする。</p> <p>☆ 高幡不動尊の歴史や文化、多くの人が集まることに興味や関心をもち、その理由を考えようとしているか。</p>
ま と め	<p>○ 出された資料や意見をもとに、学習問題・計画を立てる。</p>	<p>☆ 伝統や文化を活用して、人を集めたり、まちづくりをしてきたりしたことに関心、学習問題をつくることのできたか。</p>

## 6. 成果と課題

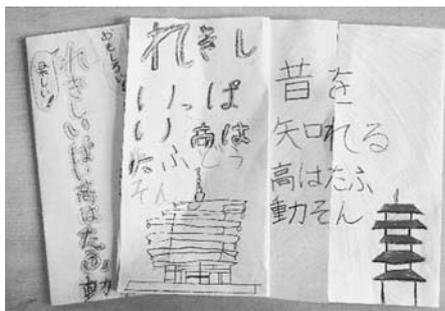
### (1) 成果

- ・ 学区域にあり、ほとんどの児童が行ったことのある建物であるにもかかわらず、奥殿や鳴り竜などを見たことがある児童は数人しかいなかったの、興味をもって活動に取り組むことができた。
- ・ 「高幡不動尊のガイドブックを作ろう」というめあてをもって見学に行ったので、興味をもって文化財を見て、職員の方の話をよく聞いていた。
- ・ 高幡不動尊には重要文化財や数多くの行事があることを知ることで、日野市民としての誇りをもつことができた。



### (2) 課題

- ・ 見学に行ったのが、ほとんどの行事が終わってしまっていた時期だったので、多くの人に来て賑わっている様子を感じることはできなかった。



- ・ 古くて昔からあった建物で寺宝が沢山あることに触れることはできたが、まだ3年生ということもあり歴史を深く感じるまでには至らなかった。

(潤徳小学校 木村 文子)

## (6) 地域に生きる「異聖歌の心」

(第4学年 総合的な学習の時間)

### 1. 単元設定の理由

#### (1) 単元について

本単元では、学習対象として「異聖歌」を取り上げる。異聖歌を学習対象として取り上げた意義は以下の2点あると考える。

1点目は、異聖歌が作成した「たきび」が子供たちにとって身近であり、また、童謡という点においても子供たちの心をつかみやすいものだと考えたからである。本校の最寄り駅は中央線豊田駅になる。平成22年から「たきび」が豊田駅の発車メロディにもなり、豊田駅をよく利用している本校の児童を始め、今でも多くの日野市民にとって馴染みのあるものになっている。しかし、その馴染みのある「たきび」は誰によってつくられ、どういう意図で豊田駅の発車メロディになったかというところまで理解している児童は少ない。子供たちにとって身近な「たきび」について紐解いていき、日野市ゆかりの童謡詩人、異聖歌に焦点を当てていきたいと考える。

2点目は、日野市と異聖歌は切っても切り離せない関係だと考えたからである。異聖歌の出身地は岩手県紫波町である。その紫波町と日野市が平成29年1月30日に姉妹都市盟約の締結を行った。今後、異聖歌という架け橋のもと、日野市と紫波町の交流は盛んになっていくと考える。その中で、日野市の子供たちが紫波町出身の異聖歌を学び、その人物像や功績をまずは同じ日野市内に発信し、共有していくことは極めて意義のあることだと考えた。

#### (ア) 異聖歌について

異聖歌(本名:野村七蔵)は明治38年岩手県紫波郡日詰町に生まれた。小学生時代は、算数が得意で「暗算坊」というあだ名がついたほど。紫波郡日詰町の豊かな自然の中で走り回り植物や動物に興味をもっていく中で詩の心が芽生えていく。

昭和23年、知人の紹介で日野(旭が丘地区)に転居して以降、異聖歌は児童文学者として活躍し、「少年詩」という新しいジャンルを確立する。その一方で、詩や作文を子供たちに書かせるための学校の教師たちの指導者としても活躍した。

また、多くの校歌を作った事でも知られており、日野市内では、七生中学校と日野第四小学校の校歌を作った。詩の中には、学校から見える風景などが書かれており、聖歌が実際にそこに足を運び、周りの景色や、子供たちの話を聞きながら書いたことが分かる。

#### (イ) 異聖歌と新美南吉について

「ごんぎつね」などの作品を世に残した新美南吉。聖歌は南吉を弟のように親身になって世話をし、一緒に生活していた時期もあった。若くして亡くなった南吉の才能を惜しんだ聖歌は、南吉の作品を世の中に出すために奔走する。これらの活動の大半は、日野在住中に行われた。

今でこそ、当たり前のように国語の教科書に載っている「ごんぎつね」だが、これも異聖歌の推薦がきっかけとなって実現したものである。本単元では、この異聖歌と新美南吉とのつながりにもふれ、誰かのために半生かけて奮闘した異聖歌の思いや人物像にも迫っていきたいと考える。

## 2. 単元の指導計画

### (1) 目標

◎異聖歌の人となりや作品について調べ、日野市にゆかりのある先人のはたらきについて興味関心を高めるとともに、調べたことに対する自分の考えをもち、積極的に発信しようとすることができる。

### (2) 評価の観点 問＝問題解決 学＝学び方 態＝主体的・創造的態度 自＝生き方

観点	問題を解決する力	学び方やものの考え方	問題解決への主体的・創造的態度	自己の生き方
単元の評価規準	①日野市ゆかりの異聖歌について自らの課題を適切に見付けることができる。 ②異聖歌についての課題を追究し、得た内容を効果的に相手に伝えることができる。	①必要な情報を収集し、整理・分類しながらまとめることができる。 ②調べた内容を関係付けながら、自分なりの異聖歌像を確立することができる。	①学習計画に沿って、課題解決を図ることができる。	①日野市ゆかりの異聖歌について調べる活動を通して、異聖歌について興味をもつことができる。 ②異聖歌と新美南吉の関係性を知り、これからの自分の生き方や目標を考えることができる。

### (3) 指導の流れ

時	●ねらい	○主な学習活動	□支援 ◆資料 ☆評価（評価方法）
つかむ①②	●豊田駅に「たきび」の発車ベルが使われている理由を予想し、作者である異聖歌について知り、学習問題・学習計画を立てる。	○八王子駅と豊田駅の発車メロディを比較する活動を通して、駅にはそれぞれ異なる発車メロディが採用されていることを知る。 ○八王子駅の発車メロディに「夕焼け小焼け」が採用されている理由を予想し、発表する。 ○豊田駅の発車メロディに「たきび」が採用されている理由を予想し、発表する。 ○異聖歌について知り、聞いてみたいことや疑問に思ったことを発表する。	□実際の発車メロディを聴かせることで、生活体験を思い出しやすくする。 ◆八王子駅・豊田駅の発車メロディ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【比較】</b>              八王子駅と豊田駅の発車メロディを比較してその違いから問題意識をもたせる。           </div> □「夕焼け小焼け」の理由を考える際、作者・風景ともに八王子とゆかりがあることをおさえ、次の活動に入りやすくする。 ◆異聖歌の顔写真 ☆問①（発言・ワークシート） □ここでは、新美南吉とのつながりはあえて出さず、大まかな人物像を捉えられるような資料を準備する。
	学習問題 「たきび」を作った異聖歌はどのような人だったのだろうか。		

調べる

③

④

⑤

異聖歌はどこで生まれ、どのように過ごしたのだろうか。

●岩手県紫波町の特徴を写真から読み取り、自分の言葉でまとめる。

●異聖歌の幼少期を、紫波町の特徴と関連付けながら、理解する。

- 航空写真から岩手県紫波町の特徴を調べる。
- 紫波町の実際の写真から異聖歌の幼少期を予想する。
- 異聖歌の幼少期のエピソードを調べる活動を通して、異聖歌の幼少期の様子をまとめる。



- ◆岩手県紫波町の風景
- 「グーグルアース」を活用し、航空写真を調べる活動を通して、紫波町の特徴を発表させる。
- ◆副読本「わたしたちの紫波町」
- 資料から幼少期の異聖歌の様子がわかる所に下線を引くよう声をかける。

【関係付け】【類推】  
調べた事柄と人物像を関係付けながら類推する。

☆態① (発言・ワークシート)  
☆学① (発言・ワークシート)

「たきび」の情景を思い浮かべ、作品に込められた思いを読み取ろう。

●異聖歌の作品「たきび」を視写・音読し、「たきび」の中の情景を思い浮かべる。

- 「たきび」の詩を読み、リズムや響きに慣れ親しむ。
- 「たきび」の情景を思い浮かべ文章化し、グループで交流する。
- 異聖歌が「たきび」に込めた思いを考え、交流する。

- ◆「たきび」の詩
  - ◆「かきね」「山茶花」の写真
  - ◆「たきび」の唄
  - 印象に残った個所やお気に入りのポイントにサイドラインを引かせ、異聖歌の思いをまとめる際の手掛かりになるようにする。
- ☆学② (発言・ワークシート)

異聖歌が見てきた日野はどのような日野だったのだろうか。

●日野を舞台にした異聖歌の作品に触れ、異聖歌の思いの他に当時の日野の様子を理解する。

- 日野を舞台にした異聖歌の作品を提示し、自分のお気に入りを見付ける。
- なぜ、お気に入りの部分を選んだのか、お気に入りの部分はどこなのかをサイドラインを引きながらまとめ、交流する。
- 同じ作品を選んだ者同士でグループを作り、当時の日野について話合う。



- ◆『はるのにおい』の詩
  - ◆『ぼくもわたしも大きくなった』の詩
  - ◆『ぼくらの団地』の詩
  - ◆『雲雀の声は』の詩
  - 自分のお気に入りのポイントが全体で共有しやすいようサイドラインを引くようにする。
- ☆問② (発言・ワークシート)  
☆自① (発言・ワークシート)

⑥	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">異聖歌と新美南吉はどのような関係だったのか調べよう。</p> <p>●異聖歌と新美南吉の関係性を知り、異聖歌の心情や人物像を考える。</p>	<p>○写真を通して異聖歌と新美南吉のつながりを確かめる。</p> <p>○両者の手紙の内容から、聖歌が南吉にどのようなことをして南吉はどう思っていたのかを調べる。</p> <p>○学習を振り返り、自分なりの異聖歌の人物像をまとめる。</p>	<p>◆新美南吉が異聖歌にあてた手紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【関係付け】 【類推】 手紙の内容（事実）と関係付けながら異聖歌の人物像を類推する。</p> </div> <p>□事実を明らかにして異聖歌の人物像をまとめるように声をかけ、根拠を基にした意見を出しやすくする。</p> <p>☆学②（発言・ノート） ☆自②（発言・ノート）</p>
⑦ ⑧ ⑨	<p>●相手に伝えたいことを明らかにし、発表の方法を工夫してまとめる。</p> <p>●中間発表を行い、アドバイスを受けて補足修正を行う。</p>	<p>○探究してきた内容をまとめる。</p> <p>○中間発表をする。</p> <p>○アドバイスを受けて補足修正を行う。</p>	<p>□話し手のポイント・聞き手のポイントを明確にして、意識をもって発表したり聞いたりできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【選択】 相手に異聖歌の魅力が伝わりやすいよう、調べた結果を選択しながら発表資料にまとめる。</p> </div> <p>☆問②（発言・発表資料）</p>
	<p>●探究してきた問題に対して発表会を行う。</p>	<p>○中間発表会で出された意見をもとに、本発表を行う。</p> <p>○これまでの学習の振り返りを行う。</p>	<p>□話し手のポイント・聞き手のポイントを明確にして、意識をもって発表したり聞いたりできるようにする。</p> <p>☆問②（発言・発表資料）</p>

参考文献

- 盛岡タイムス（平成28年12月24日） 内城弘隆
- 岩手日報連載「文学の國いわて」 道又力
- 新美南吉の手紙とその生涯

（日野第六小学校 教材研究者 島谷 直樹  
授業者 福井 晴美）

## (7) 平山陸稲（ひらやまおかぼ）はなぜ日本中で育てられたのか

(第4学年 総合的な学習の時間)

### 1. テーマ設定の理由

体験的な活動や調べることを通して、平山陸稲について学び、平山地域のよさや人々の思いを感じ、郷土への誇りを育てたいと考えテーマを設定した。

また、林丈太郎について知り、地域をよりよくしたいという思いや苦労や願いなどを理解させたいと考えた。

### 2. 教材化の意図

平山陸稲と呼ばれている陸稲「平山」は、水を引くことの不便な畑でも作れる稲である。

平山陸稲は、当時の平山村に住んでいた篤農家の林丈太郎が明治44年（1911）年栽培していた陸稲の「凱旋」の稲穂の中に穂先が紫色で成熟の遅い株があるのを見つけ、品種改良の苦労を重ね、作り出した味や収量の多い丈太郎陸稲を改良したものである。丈太郎陸稲は、味や収量の多さから近隣の農家に知れわたり、

当時日野町豊田にあった東京府立農事試験場第一分場でさらに改良されて陸稲「平山」（東京平山）と命名された。この陸稲「平山」は、東京府の奨励品種にも採用され、次第に関東近県から日本中に広まり、戦前の陸稲栽培に大きく貢献した。林丈太郎は大日本農会や南多摩郡農会から表彰され功績をたたえられました。

平山陸稲は、それ以前に栽培されていた陸稲より味がよく、干ばつや病気に強く、収穫量の多い、栽培しやすい品種であったため、特に日本海側の中国地方の砂地や乾燥地で作られた。

しかし、全国に知られた「平山陸稲」も戦後の治水事業や農地改良、農機具の機械化によって水田が拡張・整備されたためいつしか栽培されなくなった。

本校では、JA東京みなみの協力を得て平成13年に筑波の農業試験場より25グラムの種もみを分けてもらい、3年生のゴマづくりや5年生の古代米づくりなどの農業指導で以前からお世話になっていた地域の農業者小林和男氏のご指導のもと4年生の総合学習の時間で3年間かけて種もみを増やし、平山陸稲の復活をみた。本校では、平山の地名を全国に知らしめたこの陸稲作りの伝統を、誇りを持って子どもたちが伝えている。

平山の宗印寺にある林丈太郎の墓碑には「林丈太郎ここに眠る 品種改良家 陸稲「平山」を創む また平山の名を全国に広めたり 墓石はいとも小なり さ



れどその功績はいとも大なり」と丈太郎をたたえる言葉が刻まれている。

「平山陸稲」の学習や栽培を通して作物づくりの難しさや草取りなどの苦しさ、収穫の楽しさ、さらに林丈太郎の生き方を学んで、平山の地域に誇りと愛着をもつことができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

### 3. 指導の流れ（全16時間）

	学習活動と内容	○支援 ☆評価
気付く	<p>平山陸稲について知ろう（1時間）。</p> <p>○平山陸稲の実際のもみについて観察しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色・形・大きさ・手触り・におい</li> <li>・陸稲と水稲の違いについて</li> <li>・平山陸稲と呼ばれるようになったのはなぜか</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>平山陸稲のよさを見付けよう。</p> </div>	<p>○平山陸稲の特徴について話をする。</p> <p>○なぜ陸稲を育てることになったのか地理的、歴史的背景について知る。</p> <p>○活動の様子や活動を通して気付いたことを観察カードに書かせる。</p> <p>○利水が不便な台地上は畑作（陸稲）が中心の農村地帯であったことなどを資料提示する。</p> <p>☆平山陸稲について興味をもっている。</p>
見通す	<p>平山陸稲について課題を決める（2時間）。</p> <p>○これまでの体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいことを話し合い、全体で共有しながら、自分が調べたいことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲と陸稲の違い</li> <li>・陸稲の種類</li> <li>・陸稲の育て方</li> <li>・陸稲の天敵</li> <li>・林丈太郎について</li> <li>・陸稲を使った料理</li> </ul> <p>○調べる方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットをつかいインターネットを活用する。</li> <li>・副読本で調べる</li> <li>・地域の方やJAの方へインタビューをする</li> </ul>	<p>○平山陸稲について調べたいことをたくさんあげさせ、資料も多く提示する。</p> <p>○調べる課題ごとにグループを組む。</p> <p>☆友達との話し合いを通して、疑問や課題を見つけることができる。</p> <p>○平山小学校では、各学年で様々な農業体験を行ってきたことや創立百三十周年（平成15年）を機に、平山陸稲の栽培をすることになった経過を提示する。</p> <p>○市の副読本の「地域にこうけんした人」林丈太郎がどのような人物であったか提示する。</p> <p>○毎年、小林和男さんに陸稲作りについて教えていただいている風景や筑波の農業試験場についても資料提示する。</p>

見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室や図書館で調べる</li> <li>・実際に農家の方に話を聞きに行く</li> <li>・平山小学校の副読本で調べる</li> <li>・学校の記念誌や副読本を読む</li> </ul> 	<p>○郷土の良さについて誇りを持って唄った「平山節」が合併前の平山小学校では、全校児童が運動会で踊っていたことを提示する。</p>  
追究する	<p><b>平山陸稲について調べよう（5時間）。</b></p> <p>○課題別のグループに分かれて、調べ学習の計画を立てる。</p> <p>○課題別のグループで、調べ学習を進める。</p>	<p>○地域の方へインタビューなど話をする機会を設け、交流できるようにする。</p> <p>☆情報を集める手段を知り、適確に情報をあつめることができる。</p>
表現する	<p><b>調べたことを発表しよう（6時間）</b></p> <p>○グループごとに調べたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・タブレット</li> <li>・その他</li> </ul> <p>○発表会に向けて発表練習をする。</p> <p>○友達からアドバイスをもらい、それをもとに見直しをする。</p> <p>○発表会を行う。</p>	<p>○別の班の発表を聞き、アドバイスをもらう。</p> <p>○アドバイスの仕方について例示をする。</p> <p>☆相手に伝わるように、声の大きさや言葉遣いに注意して発表することができる。</p> <p>○発表会で使用したイラストやポスターなどは学校の掲示板に掲示し、平山陸稲を全学年に伝えられるようにする。</p>
ふりかえり	<p><b>これまで学習したことをふりかえろう（2時間）。</b></p> <p>○体験的な活動や、調べ学習をふりかえり、取り組んできた感想を文章にまとめる。</p>	<p>○3年生が陸稲を育てることの大切さや意味について、考えられるようにする。</p> <p>☆平山陸稲を育てたこと・調べ学習で学んだことを通じて、自分の地域とのかかわりについて考えている。</p>

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

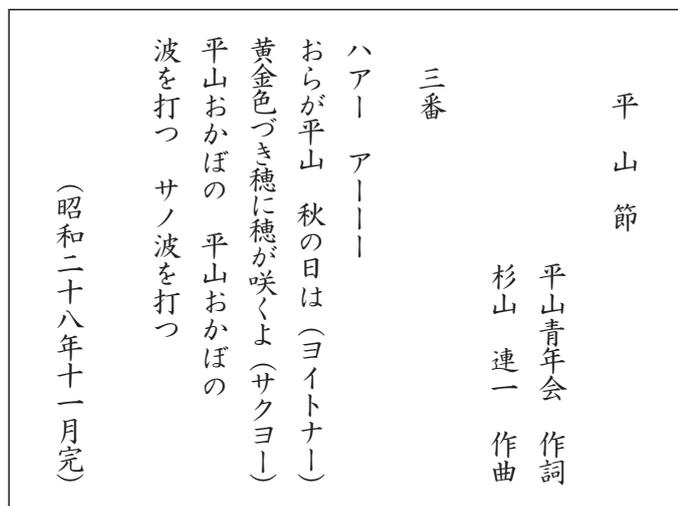
- ・平山陸稲について学び、種まきや草取りなどを行いながら実際に育て、食べてみることで、作物作りの難しさや喜びを学ぶことができた。また平山陸稲の歴史、それが生まれた時代背景などから林丈太郎の生き方について学ぶことができ、郷土への誇りと愛情を育むことができた。
- ・子どもたちの中に平山陸稲を受け継ぎ、次年度へ継承しようという意識が芽生えた。

### (2) 課題

- ・学年ごとの様々な農作物づくりを通じて、農業の大切さを年齢に応じて学ばせること。
- ・農業指導者との打ち合わせを綿密に定期的に行うことが必要である。
- ・農作物は自然相手の作業であるため、完成品が良品であるとは限らない。農業者が良品を創るための工夫や努力をどのように子どもたちに伝えるか
- ・平山陸稲の指導計画を年度ごとの教員間の引継ぎで確実にを行う。

### 参考文献

- 日野市立平山小学校 副読本「ひらやま」
- 平成22年度「郷土日野」指導事例第6集
- 日野市副読本・平山小学校副読本
- 広報ひの



(平山小学校 堀内 正人)

## (8) 今も残る戦争の傷跡 ～戦争と人々の暮らし～

(第6学年 社会科)

### 1. 教材化の意図

現在も世界のいたる所で紛争が起きている。今、日本では、大きな紛争は起きていないが、かつては悲惨な戦争をしていたという歴史的事実がある。戦後70年が経ち、祖父母や親戚から戦争の体験を伝え聞いたことのある子供は少なくなってきた。

日野市でも、戦争中に4回ほど空襲を受け、家が壊れたり死者が出たりした。七生地区で調べてみると、南平の八坂神社の鳥居には、今も空襲の傷跡が残っている。子供たちにも身近である高幡山金剛寺は港区(旧赤坂区)の学校の疎開先として使われていた。「七生村村法」には、「興亜奉公日」のことや村会のことなど七生村の様子が記されているなど、当時の様子が分かる。市内で見ると市内の工場は軍需工場として使われていたり、東町には空襲で亡くなった人々を供養する延命地蔵があったりと戦争に関わる場所が存在している。

そこで、日野市(自分の身近な地域)に残る戦争の跡を知ることで、戦争が自分とかけ離れたものではないことを感じるようにしたい。戦争への関心を高めた上で、学習問題を立てて追究させていく。また、歴史的事象相互の関連や因果関係を読み取ったり、我が国と諸外国との関係・人々の様子をまとめたりする学習活動を通して、歴史的事象を多面的にとらえることができるようにしたい。さらに、戦争を経験した地域の方に質問したり、戦時中の生活についてお話を伺ったりする活動を通して戦時中の人々の暮らしへの理解を深めるとともに、戦争を体験したゲストティーチャーへの手紙を書くことにより、平和に対する自分の考えや願いを深めるようにしたい。

本単元を通して、歴史学習では、単に過去のことを知ればよいのではなく、現代に生きる自分との関わりの中で、何らかの問いを自分の中に広げられるようにすることが大切であることを児童に伝えていきたい。

### 2. 指導計画

#### (1) 単元の目標

アジア、太平洋に広がって行われた戦争や地域に残る戦争の傷跡を調べることで、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解することができる。

#### (2) 単元の指導計画

時数	本時のねらい	○主な学習活動・学習内容	・評価 ●地域の資料
1	空襲の被害を受けた写真から、太平洋戦争や戦争が日野に与えた影響について興味・関心をもち、学習問題を設定できるようにする。	<b>戦火に焼けた日本</b> ○東京大空襲の写真を見て気付いたことを話し合う。 ○日野で空襲の被害を受けた写真から戦争が日野にどのような影響を与えたか考える。 ○戦争とその時代について関心をもちたことから学習問題をつくる。	・空襲の被害を受けた写真から戦争とその時代の人々の暮らしに関心をもち、進んで調べようとしている。 ・日本の戦争や人々の暮らしの様子について学習問題を考え、表現している。 ●南平の八坂神社の鳥居 ●空襲で焼けた皿

2	日本と中国との戦争がどのように始まり、展開していったのかを調べ、中国大陸で戦線が拡大していった経緯を理解することができるようにする。	<p><b>中国との戦争が始まる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本が中国大陸に進出していった経緯や満州に渡った人々がどのような暮らしをしていたのか調べる。</li> <li>○満蒙開拓と日野市とのつながりについて知り、農場での生活の大変さをとらえる。</li> <li>○満州国建国が国際社会の反感を買い、日本が孤立していったことをとらえる。</li> <li>○日本と中国との戦争がどのようなものだったかについて考え、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中戦争がはじまった経緯と、その後中国全土に戦線が拡大していったことを理解している。</li> <li>●東京報国農場</li> <li>●東京府拓務訓練所</li> </ul>
3	戦争が、アジア・太平洋の広い範囲に拡大していった経緯や背景を調べ、その影響について理解することができるようにする。	<p><b>アジア・太平洋に広がる戦争</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年表と地図から、戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていく経過を読み取る。</li> <li>○グラフから、日本とアメリカの航空機生産力の違いが何を意味するかを考える。</li> <li>○戦況の変化や占領地域の人々にあたえた影響について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年表や地図から、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことを読み取っている。</li> <li>・年表や地図から、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことの影響を理解している。</li> </ul>
4	戦争中の暮らしの様子を調べ、戦争が人々の暮らしにあたえた影響について理解することができるようにする。	<p><b>戦争と人々の暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や年表から、人々の暮らしが変わっていった様子を調べる。</li> <li>○日野に残る代用品の写真から戦争が長引くにつれ、資源や物資が不足していったことをとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や年表から戦争中の人々の暮らしの変化を読み取っている。</li> <li>・戦争中の国の政策が人々の暮らしにあたえた影響について理解している。</li> <li>●代用品の写真</li> <li>●国民の衣服</li> </ul>
5	戦争中の子どもたちの暮らしの様子を調べ、戦争が子どもたちの暮らしにあたえた影響について考えることができるようにする。	<p><b>子どもたちと戦争</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当時の子供の絵から、戦争中の子どもたちの暮らしを予想する。</li> <li>○学校生活の写真や当時の教科書から、戦争中の子どもたちの暮らしについて調べる。</li> <li>○戦争が子どもたちの暮らしにどのような影響をあたえたのか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦時中の子どもたちの暮らしの様子をつかみ、自分たちの日常生活と比較しながら、当時の子どもの思いや願いを考えている。</li> <li>●手習い見本「初等科習字」</li> <li>●児童絵画</li> </ul>
6	戦争の体験談を聞き、戦争が人々の暮らしにあたえた影響について理解を深められるようにする。	<p><b>戦争体験談を聞こう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦争中の暮らしの大変さや今と比べて違うところなど生活面(衣食住)についての話とその当時の思いについて聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験談を聞き、戦争が国民の暮らしにあたえた影響について理解している。</li> </ul>

7 本時	空襲による被害や地域に残る戦争遺跡について調べ、戦争によって国民が受けた被害の大きさを理解することができるようにする。	<p><b>おそいかかる空襲</b></p> <p>○空襲の様子の写真などから、空襲についてとらえ、日本各地での空襲による被害について調べる。</p> <p>○日野であった空襲や地域に残る戦争遺跡について知ったり、空襲体験者の話を讀んだりする。</p> <p>○戦争に対して国民がどのようなことを考えていたのかを考える。</p>	<p>・空襲によって国民が受けた被害の大きさについて理解している。</p> <p>●南平の八坂神社の鳥居</p> <p>●空襲の被害について</p> <p>●空襲体験者の話「田中紀子」</p> <p>●東町の延命地藏尊</p>
8	学童疎開の場所や疎開中の生活について知り、戦争が子供にあたえた影響について考えを深めることができるようにする。	<p><b>空襲をさけるために</b></p> <p>○学童疎開中の一日の生活について知り、当時の子どもたちの思いについて考える。</p> <p>○高幡山金剛寺、寿徳寺など、いくつかの寺院が集団疎開先であったことや平山学寮日記などから当時の子どもたちの思いについて理解を深める。</p>	<p>・空襲により学童疎開をせざるをえなかったことや疎開中の生活について知り、戦争に対する子どもたちの思いについて考えを深める。</p> <p>●疎開先のお寺の写真</p> <p>●平山学寮日記</p>
9	沖縄戦や広島・長崎への原爆投下について調べ、大きな犠牲の上に戦争が終結したことを理解し、この戦争に対する自分の考えを深めることができるようにする。	<p><b>沖縄・広島・長崎、そして敗戦</b></p> <p>○沖縄戦の様子と被害について調べる。</p> <p>○広島・長崎に投下された原子爆弾による被害について調べる。</p> <p>○日本が敗戦を迎えるまでの経緯について調べ、戦争が国内外に大きな被害を出して終わったことをつかむ。</p>	<p>・沖縄戦や原子爆弾がもたらした被害の大きさについて理解している。</p> <p>●高幡山松根油採取の跡の写真</p>
10	単元をふりかえり、戦争と人々の暮らしについてまとめる。	<p><b>戦争と人々の暮らしをまとめよう</b></p> <p>○学習問題についてまとめる。</p> <p>○ゲストティーチャーに手紙を書く。</p>	<p>・学習したことをもとに、この戦争に対する自分の考えをまとめ、表現している。</p>

### 3. 本時について（7／10）

#### （1）本時の目標

空襲による被害や地域に残る戦争遺跡について調べ、戦争によって国民が受けた被害の大きさを理解することができるようにする。

	○主な学習活動	◇資料 ◆留意点 ☆評価
つかむ	<p>1 問題をつかむ</p> <p>○写真や映像から空襲の様子についてとらえる。</p> <p>○空襲された都市の被害について推測する。空襲でどのような被害を受けたのだろう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">空襲でどのような被害を受けたのだろう</div>	<p>◆日野市の空襲に関する写真を提示することによって、学習をより身近なものに感じさせる。</p> <p>◆空襲を受けて燃え上がる町の映像などを提示し、考えさせる。</p> <p>◇爆弾・焼夷弾の破片、空襲の映像</p>
調べる	<p>2 日本各地での空襲の被害について調べる</p> <p>○資料から日本各地が受けた被害について調べ、ノートにまとめる。</p> <p>○まとめたことを発表し、交流し合う。</p>	<p>◆空襲が全国に広がっていること、県庁所在地をはじめとした人口の多い都市に集中していることを読み取らせる。</p> <p>◇空襲を受けた主な都市（地図）</p>
	<p>3 日野市での空襲の被害について調べる</p> <p>○空襲状況の資料や地域に残されている戦争遺跡について調べ、空襲によって受けた被害について調べる。</p> <p>○戦争体験者の話を聞き、当時の人々の気持ちを話し合う。</p>	<p>◆資料をもとに、身近な地域にも戦争の影響があったことをとらえさせる。</p> <p>◇明日へ伝える戦争体験 p18「日野への空襲」、空襲体験者の話「田中紀子」、東町の延命地藏尊</p>
まとめる	<p>4 学習のまとめをする</p> <p>○空襲による被害や空襲体験者の話から、戦争の被害が日本全土に広がっていたことをまとめる。</p>	<p>◆20万人という数を実感させるために、自分たちが住む地域の人口と比較させる。</p> <p>☆空襲によって国民が受けた被害の大きさについて理解している。</p>

#### 4. 成果と課題

1時間目に日野（七生地区）に残る戦跡の写真を見せたことで、戦争が自分とかけ離れたものではなく、今住んでいるところでもあった身近なものだと感じる事ができた。そのことが「どうして戦争をしたのだろう。」「人々はどんな気持ちだったのだろう。」という疑問を生み、学習問題につながった。本時でも、日野市に残る戦跡や空襲の体験談を取り上げたことは、関心を高めただけでなく、戦争中の日野市の様子や人々の思いの理解につながった。さらに、ゲストティーチャーを招き、直接話しを聞くことができたことで、学習したことがより深まったように感じる。単元の最後に、お礼の手紙を書くという内容での学習は、平和に対する自分の考えや願いを深めることのできる良い機会となった。

戦争のことについては、テレビや本で知っている児童が多かったが、その知識量には差があり、それが学習の理解の差にもつながったように感じる。年表や地図を効果的に活用しながら、時間的・空間的に社会的事象を捉えることを大切にしていける必要がある。また、戦争中の人々の思いやこれからのことについて考える時間が少なかった。今後は平和学習として、総合的な学習とも関連付けながら学習を進めていくことも必要であると考えます。

#### 参考文献

○「明日に伝える戦争体験」1997年3月 日野市ふるさと博物館

(日野第八小学校 島方 健太)

## (9) 多摩地域は昔神奈川県だった ～学校の開校を通して～

(第4学年 社会科)

### 1. テーマ設定の理由

自分たちが住む日野市の七生地域が、昔、東京都ではなかったことを知る児童は、はたしてどれくらいいるのだろうか。

歴史を見ると、1893年(明治26年)、廃藩置県で神奈川県にあった七生村を含む南多摩郡は、当時の東京府に移管された。しかし、移管に至る経緯については当時の玉川上水の管理問題や、多摩地域自由党勢力の削減といった行政的・政治的思惑が多く働いており、その内容を教師が児童に説明し、また児童が理解するのはかなり難しいのではないかと考えた。

そこで、かつて日野には東京府に移管される約120年前より以前から、「学校」が市内に5校創立され(現:日野一小、平山小、潤徳小、日野四小、豊田小)、現在に至っていることにスポットを当てた。その事実を、周年誌に記載されている内容や、副読本「わたしたちの日野」に載っている年表を活用しながら調べると、七生村が神奈川県から東京府に移管された史実を、児童が分かりやすくとらえることができるのではないかと考えた。

本授業ではまず年表を活用し、七生村を含む日野市が神奈川県から東京府に移った経緯を確認するとともに、東京府になる以前から日野には学校が存在し、第二次世界大戦後の学制改革や人口発展と共に、学校数が急増していった事例を調べる活動を取り入れる。また、学校誌やゲストティーチャーを通して、東京府に移管される前の学校生活の様子や、創立された当時の南平小学校の学校生活や地域の様子についても調べる活動を取り入れる。そのような活動を通して、時代の変遷とともに日野の学校の数や姿も変わり、児童の学校生活の様子も変わっていったことをとらえさせたい。

### 2. 教材化の意図

学校は、時代の変遷、社会情勢の変化、地域の要請と共に、新たに創立されたり、統合されたり、校名を変更したりしてきた。

例えば平成期で見ると、2002年に程久保小学校と高幡台小学校が統合されて夢が丘小学校が誕生したのを皮切りに、2006年には旧平山小学校と平山台小学校が統合され、新たに平山小学校が、2009年には百草台小学校と三沢台小学校が統合され、七生緑小学校が誕生した。2015年には、日野第二小学校が、校名を60年ぶりに豊田小学校に戻した。

また最近では、日野市内でも地域により宅地整理やマンション建設等による人口増で児童数も増え、今後を見据えて日野第五小学校のように校舎増築を行った学校も見られる。

このように、子供たちにとってつねに身近な存在であり、時代と共に様態を変えていきながら、次世代に活躍する子供たちを育てる「日野の学校」を取り上げることは、児童が自分の通う学校や地域に対する誇りや愛情を深めていくうえで意義のあることと考え、今回、教材化を図った。

### 3. 単元指導計画（7時間）

	主な学習活動・内容	・資料 ○評価
つかむ (一時間)	<p>○七生を含む日野市が、昔、どこの県に属していたのかを調べる。 「日野市は、昔、東京都ではなかったのを知っていますか」 「どこの県に属していましたか」</p> <p>○どこの県だったのかを予想し、年表で調べる。</p> <p>○七生村が東京府に移管される前の学校の数や、東京府に属してから第二次大戦終了までの日野市の出来事を年表で調べる。</p> <p>○学習問題を考える。 日野の学校の数や、当時の学校生活の様子を調べよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">日野の学校の数や、当時の学校生活の様子を調べよう。</div>	<p>・副読本「わたしたちの日野市」の年表</p> <p>・学校誌「潤徳百年のあゆみ」の年表</p> <p>・日野市全域の地図</p> <p>○当時の日野市の学校の数や、学校生活の様子について、意欲的に調べようとしている。 (関・意)</p>
調べる・深める (四時間)	<p>○東京府に移管されてから、第二次大戦終了までの、日野の学校生活の様子を、学校誌を使って調べる。 (2時間扱い)</p>	<p>・周年誌「潤徳百年のれきし」</p> <p>○当時の学校生活や地域、戦時中の様子について、学校誌を用いて調べ、理解することができたか。 (技)(知)</p>
	<p>○学校数が急増した時代(1947～1985年)の学校数を調べる。</p> <p>○なぜ、この時期(1947～1985年)に学校数が急増したのか、その原因を考える。</p>	<p>・副読本「わたしたちの日野市」の年表</p> <p>・上記の年表に掲載されている人口数の推移</p> <p>○日野市の宅地開発等により日野市の人口が増え、学校数もそれに伴い急激に増加したことを理解することができたか。 (思)(技)(知)</p>
	<p>○南平小学校が開校された当時(開校から10周年まで)の学校生活および地域の様子を、学校誌を用いて調べる。</p> <p>○当時の南平小学校の学校生活の様子について、ゲストティーチャーから話を聞く。</p> <p>○ゲストティーチャーの話から、南平小学校をどんな学校にしたいかを考える。</p>	<p>・上記の年表、および周年誌「みなみだいら」</p> <p>・ゲストティーチャー2名 (もと児童の方、もと教職員の方)</p> <p>○学校誌で調べたり、ゲストティーチャーから話を聞いたりしながら、当時の南平小学校の学校生活や地域の様子、思いや願いを知り、南平小学校をどんな学校にしたいのかを考えることができたか。 (思)(技)(知)</p>

まとめる (二時間)	○前時までで調べた内容をもとに、当時と今の南平小学校の学校生活の様子を、班新聞にまとめる。	○現在、児童が過ごす学校生活の様子と比べながら、当時の南平小学校の学校生活の様子と、これから南平小学校をどんな学校にしたいのか、考えながらまとめることができたか。(思) (技)
---------------	---	--

#### 4. 本時の授業（5時間目）

ねらい

- ・人口増にともなう学校急増期に設立された南平小学校の、当時の学校生活の様子を知る。
- ・ゲストティーチャーの思いや願いから、南平小学校をどのような学校にしたいか、自分の考えをもつ。

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価
導入 (二分)	○南平小学校が開校された年を確認する。 「南平小学校が開校された当時、日野市の人口は、どのような状態でしたか？」	・副読本「わたしたちの日野市」の年表から、当時が人口の急増期に伴い、南平小が開校されたことを確認する。
展開① (十五分)	○南平小学校開校から10周年までの学校生活、地域の様子を学校誌を使って調べ、文章や写真から、分かったことや気が付いたことをノートにまとめる。 <調べる視点> ・開校までの様子 ・開校してからの様子 ・学校行事 ・米作り ・昔の南平（江戸～大正時代） ・当時の南平（第二次大戦後～開校10周年当時）	・開校十周年誌「みなみだいら」を使用する。 ・今日調べた内容は、次時で取り組む班新聞作りの資料になることを伝える。 ・学校誌を読みながら、班新聞に取り入れたい内容を決め、まとめるよう伝える。 ○学校誌を活用しながら、当時の南平小学校の様子について、分かったことや気が付いたことをノートにまとめている。(技)
展開② (二十分)	○開校当時（開校1974年から1984年頃）の南平小学校の学校生活や地域の様子について、ゲストティーチャー2名（元児童の方、元教職員の方）から話を聞く。 <お話していただく主な内容> ・学習内容 ・給食や遊び ・地域の様子 ・学校行事の様子 ・米作りの様子 ・どんな学校に発展してもらいたいのか（思いや願い）	・ゲストティーチャーから、当時の学校生活や地域の様子、南平小への思いや願いについてお話をいただく。 ・質問したいことを考えながら、ゲストティーチャーの話を聞くよう伝える。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、分かったことや気が付いたことをノートにメモしている。(技)



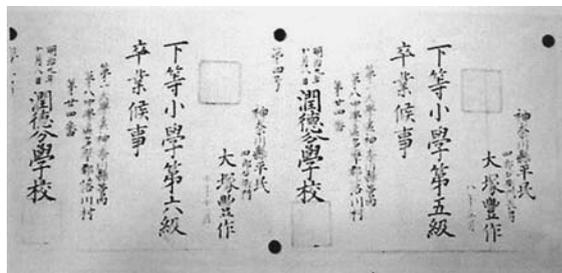
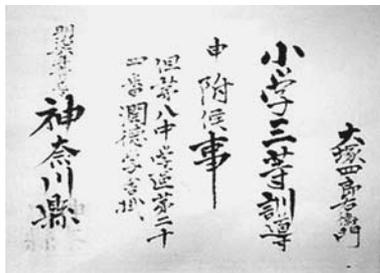
まとめ (八分)	○本時の学習を振り返り、自分の考えをノートに書く。	○学校誌で調べた内容や、ゲストティーチャーの話を読み出しながら、南平小学校をどのような学校にしたいか、自分の考えをノートに書いている。(思)
-------------	---------------------------	--

### <成果>

- 周年誌と副読本年表の活用により、児童は当時の学校生活の様子に興味深く調べ、学校増と人口増との関係をとらえることができた。
- 当時の南平小学校の様子を知る方をゲストティーチャーにお招きしたことにより、児童は驚きと共に興味深く、当時の南平小の学校生活や学校行事の様子を調べることができた。
- ゲストティーチャーの思いや願いを受け、児童自身も「自分たちが、これからの南平小学校をどう発展させていくか」という視点で、「地域と協力する」「伝統を受け継ぐ」「米作りをこれからも続ける」といった自分なりの思いや願いを考えて発表し、まとめることができた。

### <課題>

- 日野市が昔神奈川県に属していたことと、日野の学校が発展していった部分を関連付ける具体的な資料が必要であった。そのため、本単元のまとめにて、神奈川県だった当時の潤徳小の「教員免許状」と「卒業証書」のコピー資料を児童に提示し、昔、日野が確かに神奈川県に属していたことを、資料読み取りを通して児童に理解させるようにした。



- ゲストティーチャーの話を受け、児童が考えた内容の中には「人に優しくする」「思いやりのある学校にする」などの意見も見られ、思いや願いが道徳的な内容に偏ってしまった部分もあった。

(南平小学校 久保田 聡)

## (10) 武士のおこりと牧

～馬頭観音・落川遺跡から知る武士団の生活～

(第5学年 社会科)

### 1. 教材化の意図

落川遺跡は1977年に発見され、遺跡の範囲は約700,000㎡といわれ、隣接する多摩市にまで広がっている広大な遺跡である。遺跡内からは住居や井戸、畑跡、馬具、武具などが出土している。そのため、小野牧や、小野牧を運営していた武士団の生活や様子を知るための貴重な遺跡である。本テーマでの学習では、遺物や出土品を見ることで、現在の生活と武士団が編成されていた時代との違いにも着目させながら学習を進めたい。本校では第3学年にて、日野宮神社の歴史や日野煉瓦について学習をしたり、社会科見学で郷土資料館にて昔の暮らしの道具を観察しながら学習をしたりしている。しかしながら、武士団や牧という言葉や、それらが日野市にも存在していたという事を知る児童は少ないと思われる。学習の中で日野宮神社と日奉宗頼や平山城址公園と平山季重、宝泉寺と馬頭観音などを取り上げることで、自分たちの身近なところにも日野市の歴史を残す場所が残っていることを感じさせたい。また、調べ学習を通して6年生での歴史学習の素地を養うとともに、郷土についての関心を高め、愛着を育てることができると期待している。

### 2. 指導計画

#### (1) 単元のねらい

落川遺跡や出土品、「武士団」・「牧」について調べ、当時の生活について想像を深めると共に、日々の生活と比較しながら考え、当時の様子について調べたことをまとめることができる。

#### (2) 単元の指導計画 (全6時間)

	時	主な学習活動	□指導上の留意点    ○評価
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"><li>・日野市の歴史について話し合う。</li><li>・「武士団」「牧」という言葉から当時の生活について想像する。</li></ul>  <p>※1 家畜の牛と少年</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>□「牧」という言葉から、東京でも生き物と深くかかわった生活が行われていたことに気付かせる。</li><li>□日野市と「武士団」「牧」とのかかわりについても触れ、調べ学習への関心を高める。</li><li>○「武士団」「牧」について自分なりの考えをもち、発表することができる。</li><li>○調べ方や調べる内容について考え、学習計画を立てることができる。</li></ul>
武士団やそれに関係する遺跡や人物について調べ、当時の生活の様子について考えよう。			

調 べ る	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野市と武士団のかかわりについて考える。</li> <li>西党や日奉宗頼について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□武蔵七党の中でも、日野市にゆかりの深い西党について紹介する。</li> <li>□日野宮神社と日奉宗頼、平山城址公園と平山季重など、日野市に関連のある人物や場所を紹介する。</li> <li>□日奉宗頼と日野宮神社を関連させることで、身近なところにも日野市の歴史にゆかりのある場所があることを感じさせる。</li> <li>○日野市と武士団の関わりについて調べ、自分の言葉でまとめることができる。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>落川遺跡の様子や出土品を見て、何に使われていたのか、どのような場所だったのか考える。</li> <li>出土品について調べ、学習カードにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□モニターに写真を投影する。</li> <li>□郷土資料館より遺跡の出土品を借り、実物を見ながら調べることで関心を高める。</li> <li>□調べた内容から当時の生活の様子について考えさせ、今の生活と比較させる。</li> <li>○遺跡の出土品や様子から当時の生活について考えることができる。</li> <li>○調べた内容を自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。</li> </ul>
	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬頭観音について調べる。</li> <li>馬頭観音、落川遺跡の出土品から、当時の武士団の生活の様子について考える。</li> <li>昔の生活や馬頭観音について自分の考えをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□調べた内容から当時の生活の様子について考えさせ、今の生活と比較させる。</li> <li>□農耕や生物の供養、交通安全と、生き物とのかかわりが深かったことを理解させる。</li> <li>□日野市にある馬頭観音を地図にまとめることで、自分の身の回りにも日野市の郷土にかかわりの深いものがあることを知る。</li> <li>○調べた内容を自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。</li> <li>○当時の生活の様子について現代の生活と比較しながら考えることができる。</li> </ul>
ま と め	5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野市の武士団やその暮らしについてわかったことを新聞にまとめる。</li> <li>まとめた内容を班の中で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□今までの学習で扱った写真や資料を黒板やモニターにて掲示する。</li> <li>○調べた内容をもとに、写真を掲載したり、表を作成したりしながらわかりやすくまとめることができる。</li> <li>○友達の発表を聞いて、自分の考えを深めることができる。</li> <li>○単元の学習内容について振り返り、自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>

### 3. 本時の指導（4/6時間）

#### （1）本時のねらい

馬頭観音と地蔵観音を比較したり、落川遺跡の出土品を観察したりしながら当時の生活について想像し、現代の生活と比較しながら考えることができる。

#### （2）本時の展開

	・主な学習活動	□指導上の留意点      ○評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬頭観音と地蔵観音を比較し、違いについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□黒板に①馬頭観音、②地蔵観音を掲示する。</li> <li>□観音像ということだけ伝え、馬頭観音の頭部や表情などに注目させる。</li> <li>○馬頭観音の特徴に気が付き、自分の考えを発表することができる。（発言）</li> </ul>
馬頭観音や遺跡の出土品から当時の生活について考えよう。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬頭観音について調べる。</li> </ul>  <p>※2 宝泉寺 持ち上がり観音（馬頭観音）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落川遺跡の出土品に関する資料映像を見て、武士団の生活の様子を知る。</li> <li>資料をもとに、馬頭観音と武士団の生活とのかかわりについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□調べた内容から当時の生活について想像させる。</li> <li>□荷物の運搬・農業など、当時は馬や動物の力を借りながら生活をしていたことを抑える。</li> <li>○インターネットや参考資料から、馬頭観音について適切な情報を集めることができる。</li> <li>○調べたことを地図に表してまとめることができる。（ノート）</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の生活や馬頭観音について学習のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○馬頭観音や当時の生活について本時の学習内容をもとに自分の考えをまとめることができる。（ノート・発言）</li> </ul>

#### （3）本時のまとめ

- 授業の振り返りでは、「武士団と言っても、戦うだけじゃなくて普段は農業をしていたことが分かった。」「馬は戦い以外でも移動手段や農業に使われていて、当時の人にとって大切な存在だったことが分かった。」など、武士団の生活と馬頭観音を関連させた感想が出た。
- 馬頭観音と地蔵菩薩を比較する際は、それぞれの特徴に着目しながら考える児童が多く、馬頭観音の頭部の形を見た児童から「馬が付いているのはなんでだろう。」と、本時の学習課題に関する問いが生まれた。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- ・インターネットを適切に活用して、知りたい情報を集めることができた。
- ・資料をもとに、現代と武士団の活躍していた時代との違いについて、比較をしながら考えを深めることができた。
- ・自分たちの住んでいる地域にも武士団に関係する遺物や施設が存在することを知らない児童が多かったが、今回の学習を通して「自分の住んでいる地域について他にも歴史と関係のあるものがないか探してみたい。」という感想が書かれるなど、児童の郷土に対する関心を高めることができた。

### (2) 課題

- ・インターネットを活用して必要な情報を集めることができたが、その内容が児童には難解であったり、情報量が限られていた。
- ・今回の学習を通して児童の郷土に関する関心を高めることができた。社会科の授業以外でも、総合的な学習の時間や道徳での郷土愛とも関連させながら、継続した指導と学習の系統性を検討していく。

### 参考文献

- 平成18年度「郷土 日野」指導事例 第2集 日野市立教育センター郷土教育推進委員会
- 平成22年度「郷土 日野」指導事例 第6集 日野市立教育センター郷土教育推進委員会
- 「落川遺跡Ⅱ」日野市落川遺跡調査会

### 写真資料

- ※1 日野宿発見隊ホームページ
- ※2 日野市観光協会

(東光寺小学校 渋谷 崇伸)

## (11) 鉄道と共に発展した七生村

(第3学年 総合的な学習の時間)

### 1. テーマ設定の理由

交通は、地域と人々の生活をつなぐ、身近な資源の一つであり、社会科の学習だけでなく、自分たちの住んでいる地域の歴史を学ぶ地域学習の単元や、地球温暖化などの環境問題にも関係づけることができる。

さらに、ここ七生村は京王線に沿って東西に村が広がっており、京王線が開通したことにより、村が発展していったと考えられる。

また、2000年に開業したモノレールによって、南北の交通も拡充され、他市とのつながりも深めることができた。

七生緑小学校の学区に住む児童は、どちらの交通も利用し、生活している。そこで、3年生で、「昔の暮らし」を学ぶ際は、私たちの生活には欠かせない交通に着目して、村の歴史について学習を進めたいと考えた。

### 2. 教科化の意図

3年生の社会科「昔の暮らし」、総合的な学習の時間「七生むかし発見」の単元において、昔の道具や昔の七生村について調べ学習をしている。毎年、地域にある「石坂ファーム」の蔵を見せていただいたり、小杉先生やわかくさ幼稚園の清水先生をゲストティーチャーとしてお招きし、昔の様子をお話ししていただいたりしている。

昨年度、学習していたとき、昔の様子と今の様子を比べる活動で、まず子供たちが着目したのが、鉄道だった。特に昔の駅の話や単線だったころの話などをとても興味深く耳を傾けていた。

そこで、自分たちの住んでいる地域がどのように発展してきたかについて、鉄道の発展を通して学習し、調べたことを下級生や家族に紹介する中で、日野市のよさに気付き、郷土を愛する心を育てていきたいと考えた。

### 3. 指導計画

#### (1) 単元のねらい

- 昔の道具や人々の暮らしについて関心をもち、自分に働きかけ、意欲的に調べようとする。
- ゲストティーチャーとの関わりを通して、七生村の特色を知る。
- 当時の様子について話を聞いたり、実際に道具に触れたりする活動などを通して、昔の人々の暮らしや七生村について、そこで生活していた人々の努力で発展していったことを理解する。

(2) 単元の指導計画 (全20時間)

	ねらい	○主な活動・学習内容	・指導上の留意点 ○評価
つかむ 本時	<p>○七生村について知る</p> <p>○京王線の発展と七生村の関係について知る。</p> <p>○モノレールと七生村について考える。</p> <p>○「わたしたちのまち日野」を読んだり、実際に道具をみたりすることから、昔の道具について興味をもち、すすんで調べていく意欲をもつことができるようにする。</p>	<p>○ゲストティーチャー小杉先生の話聞く。</p> <p>・年表や地図を見る活動を通して、七生村の歴史や特徴について、自分たちの町の今と昔の違いを探す。</p> <p>・玉南鉄道から京王線に変わっていった歴史について知る。</p> <p>・行楽地へ発展し、人口が増えて栄えていったことを知る。</p> <p>○モノレールの歴史について調べ、七生村との関係について話し合う。</p> <p>○石坂ファームで、昔の農家が使っている道具を見る。わからないことは質問をして確認する。</p> <p>・かご ・井戸 ・かまど ・芋洗い棒 ・秤 など</p> <p>○当時の農家の仕事について話を聞く。</p>	<p>・日野市の昔の地図、年表、写真を用意する。</p> <p>○七生村の歴史や特徴について興味をもつことができる。 (発言・ワークシート)</p> <p>・鉄道の写真、七生地区の人口のグラフなど、資料を用意する。</p> <p>○鉄道の発展とともに成長してきた七生村について理解する。 (発言・ワークシート)</p> <p>○昔の道具に興味をもち、使い方を予想したり、質問を考えたりして、すすんで調べようとしている。 (発言・ワークシート)</p>
調べる	<p>○昔の道具について調べる。</p> <p>・道具の使い方を調べる。</p> <p>・実際に触ったり、使ったりすることで今と昔を比べる。</p> <p>・それぞれの道具のよさについて調べる。</p>	<p>○七輪の使い方を調べ、実際におもちを焼いて食べる。</p> <p>○郷土資料館から昔の道具を借り、実際に見たり手で触ったりして、道具について理解を深める。</p> <p>・電話 ・ワープロ ・箱膳 ・燭台 ・うけなど、魚を捕まえるかご ・はがま おひつ など</p> <p>○洗濯板の使い方を調べ、実際に洗濯する。</p>	<p>・道具のよさに気付けるように声を掛ける。</p> <p>・七輪を準備する。保護者にボランティアを募る。</p> <p>・昔の道具調べをする。 (ワークシート)</p> <p>・住んでいる人々のくらしの知恵などに着目できるように、声を掛ける。</p> <p>・靴下など洗濯するものを用意する。</p>
まとめる	<p>○体験をもとに、課題設定をし、昔と今を比べる内容を入れて調べ学習をする。</p> <p>○調べたことを発表する。</p>	<p>○課題別にグループを作り、本やインターネットを使って調べたことをまとめる。</p> <p>・劇 ・本 ・紙芝居 ・かるた など</p> <p>○各グループで「七生むかし発見」発表会を行う。</p>	<p>・日野市図書館から図鑑などの資料を借りる。</p> <p>○昔の人々のくらしや七生村について、そこで生活していた人々の努力で発展していったことを理解する。</p>

#### 4. 本時の指導

##### (1) 本時のねらい

京王線・多摩モノレールの歴史について興味をもち、七生村（日野市）との関係について自分の考えをもち、交流することから、鉄道により発展してきたことについて理解することができる。

##### (2) 本時の展開（2／20）

	主な学習活動	・指導上の留意点 ○評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○七生村にはどのくらい人が住んでいたのでしょうか。</li> <li>・大正14年から人口が増え始めたことについて話し合う。この年に七生村に鉄道が走り始めたことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代から平成までの人口のグラフを用意する。 （「七生丘陵の自然とくらし」より）</li> <li>・玉南鉄道の写真と拡大した駅名が隠された地図路線図を用意する。</li> </ul>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           鉄道が走ると七生村はどのように変わってきたのだろうか。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今と駅名が異なる路線図や地図を見て、なぜ、昔の駅名から変わったのかについて話し合う。</li> <li>・玉南鉄道から京王電気軌道に変わり、線路がつながることを知る。</li> <li>・京王線は旅客鉄道であり、京王線がレジャー施設を整備して、人々を呼び寄せたことにより、京王線沿線の七生村が行楽地へ発展していったことを理解する。</li> <li>○動物園線の写真を見て気付いたことを話し合う。</li> <li>・動物園線は単線だが、線路の横にもう一本線路が作れるよう、土地が確保されていることを知る。 どうして線路が増えなかったのかを考える。</li> <li>・モノレールが開業したことに着目する。</li> <li>○モノレールが通ることで、変わった点について話し合う。</li> <li>・立川や立川より先に行きやすくなった。</li> <li>・万願寺あたりの方が便利になった。</li> <li>・多摩動物公園へ来る人が増えたと思う。</li> <li>・大学へも通いやすくなった。</li> <li>・住む人が増えたと思う。</li> <li>○今後もモノレールが延びることを知り、考えたことを話し合う。</li> <li>・もっと遠くへ行けるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高幡不動駅、百草園駅、平山城址公園駅の写真を用意する。</li> <li>・多摩動物公園や京王レールランド、多摩テックなどの写真を用意し、さらにハイキングコースや鮫陵源など、人が集まる場所がたくさんあったことを紹介する。</li> <li>・線路の写真を用意する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南北にも鉄道が開業したことで、人の行き来が増えたり、便利になったりしたことに気付いている。（発言）</li> <li>○今後、予定されている延伸の構想を紹介する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市にもたくさんの方が来てもらえる。</li> <li>・新選組や高幡不動尊がもっと有名になる。</li> </ul> ○京王線やモノレールが通ることで、日野市（七生村）はどのように変化していったかを考える。	
まとめ	○今日の授業を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想をワークシートに記入する。</li> </ul>	○京王線やモノレールが開業したことにより、日野市民の生活がよりよくなったことを理解することができた。（発言・ワークシート）

## 5. 成果と課題

自分たちの住む町の歴史に興味をもち、真剣に話を聞く姿が見られた。

7つの小さな村が合併し、七生村ができたことや七生村の住人や鉄道会社の方々が、村の発展に力を尽くしたことが一番印象に残ったようだ。また、鉄道が通り、行楽地として栄えていくことで、自分たちの住むまちの人口が増えていったことを喜び、これからの発展に期待している児童もいた。「どうして〇〇が増えたのか。」「どうして〇〇が作られたのか。」など、その時代を想像しながら話し合うことで、関心を高めただけでなく、七生村に住む人々の思いや努力を理解することにつながった。

課題としては、玉南鉄道、京王電気軌道、多摩モノレールの3つは、走っている時代が異なる鉄道であるため、時系列が分かりにくく、3年生の児童には理解できない部分もあった。

多摩モノレールに関しては、児童はあまり利用することがないようで、開通したことで便利になったことをあまり実感できていないように感じた。

村の歴史や昔の人々の暮らしについて学習を進めていく導入としては、子供たちの興味関心をひき、想像しやすいため、よい教材だと感じた。

### 参考文献

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| ○「七生丘陵の自然と暮らし」            | 日野市郷土資料館    |
| ○「京王電鉄完全データ」              | 株式会社メディアックス |
| ○「週刊 歴史でめぐる鉄道全路線 17 京王電鉄」 | 大日本印刷株式会社   |

(七生緑小学校 大久保 有紀)

## 2. 関係機関との連携

### (1) 新選組のふるさと歴史館

#### 七生地区（旧七生村）の歴史について

##### 1 七生地区（旧七生村）について

七生村は、江戸時代に現在の日野市域の南部にあった百草村・落川村・三沢村・程久保村・高幡村・平村（南平）・平山村の7つの村が、明治22年（1889）に合併して誕生した村です。

なお、同じ明治22年に浅川の北側周辺の豊田村・川辺堀之内村・上田村・宮村・下田村・万願寺村・新井村・石田村が合併して桑田村が誕生しています。

つまり現在の日野市は、明治34年に日野町と桑田村が合併し、さらに昭和33年に日野町と七生村が合併、昭和38年11月3日市制施行して誕生しました。

##### 2 近年、新発見が多い七生地域の発掘調査の成果

近年、日野市では多くの発掘調査が行われています。平山橋近くの平山古墳群からは、方形周溝墓や浅川流域で最古と思われる円墳などが見つかっており、多摩地域の弥生から古墳時代を考える上で、大きな成果が出てきています。

そして、西平山三丁目付近の平山遺跡からは、平安時代の大型四面廂建物跡が出土し、この周辺でもあまり見られないものであり、話題になっています。大規模な発掘調査が間近で見られる機会はあまりないので、この機会を活かしてもらいたいと思います。なお、日野市を含めた都内にどのような遺跡があるかを調べる際は、「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス (<http://tokyo-iseki.jp>)」を利用されると便利です。

##### 3 今も残る中世の七生

###### (1) 平山季重（平山地域）

平山季重は、源義朝（源頼朝の父）から源氏に仕え、保元の乱や平治の乱にも参加した武士で、「平山武者所」とも呼ばれています。宇治川や一ノ谷の源平合戦や奥州合戦など、数々の戦で活躍しました。また、頼朝の子（三代将軍実朝）誕生に際して鳴弦めいげんの役をつとめていることから、源頼朝に重用されていたことがうかがえます。平山地域には、平山季重にちなんだ文化財が多く残されています。

###### (2) 真慈悲寺（百草地域）

平安～鎌倉時代にかけて存在した真慈悲寺は、鎌倉幕府滅亡後、記録から姿を消し、「幻の真慈悲寺」と呼ばれ、その存在場所が議論されていました。しかし、百草八幡神社の銅造阿弥陀如来坐像（重要文化財）に「武州多西吉富真慈悲寺」の銘や百草園周辺から大量の中世瓦などが出土したことなどから、百草地域（百草園周辺）に真慈悲寺があったことがわかってきました。

「幻の真慈悲寺」の調査には、日野市郷土資料館を事務局として、市民や企業、資料所蔵者などによって平成18年に組織された「真慈悲寺調査事業推進プロジェクト」の活躍があげられます。

###### (3) 高幡不動尊金剛寺（高幡地域）

高幡山金剛寺は真言宗の寺で、寺伝では平安時代初期、慈覚大師円仁が清和天皇の勅命を受

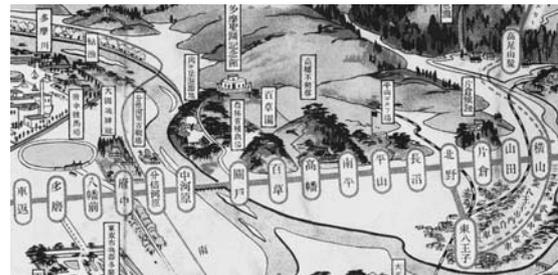
けて、山中に不動堂を定めたことに始まるとされています。建武2年（1335）の台風で山中の堂が倒壊し、康永元年（1342）に現在の場所に不動堂を再建し、現在まで大切に受け継がれています。なお、不動堂や仁王門などは重要文化財になっています。また、同じく重要文化財の不動明王坐像の胎内（首部）から見つかった文書は、南北朝時代（室町時代）の戦場の状況や当時の人間関係がうかがえる資料として、注目を集めました。

#### 4 今につながる近代の七生

多摩地域は昔、神奈川県としてスタートしました。そのため、明治26年に東京府に移管されるまで、「神奈川県南多摩郡」という表記が出てきます。

日野地域には、明治22年に現在の中央線が開通しますが（日野駅は明治23年開業）、七生地域に鉄道ができたのは、大正14年（1925）の玉南電気鉄道（現在の京王線府中―京王八王子間）が開通しました。高幡不動尊境内に記念碑が建っています。

丘陵地域が多い七生地域はその特性を活かして、野猿峠ハイキングコースや平山ゴルフ場、鮫陵源などの観光施設が誕生しました。



「京王電車沿線案内（昭和初期）」の七生地域部分

#### 5 未来につなげる現代の七生

七生村は、昭和33年（1958）に日野町と七生村が合併し日野町となり、昭和38年に市制施行され日野市となりました。

##### （1）観光の七生

戦後の七生地域は、高幡不動尊や百草園、平山城址公園など京王沿線を代表する行楽地（観光地）として発展していきました。そして、昭和33年に七生村と京王が誘致した多摩動物公園が誕生しました。多摩動物公園は当時、日本で唯一の自然動物公園でした。その後、動物園線とアフリカ園（ライオンバス）の完成（昭和39年）、日本で初めてのコアラ来園（昭和59年）、昆虫生態園の完成（昭和63年）など日本初の事例や先駆的な取り組みを行っています。

また、昭和36年には本田技研工業により自動車・エンジンをテーマとした総合遊園地「多摩テック」が誕生しました。その後、平成9年に温泉施設「クア・ガーデン」がオープンしましたが、平成21年に閉園しました。

平成25年には、晩年百草にアトリエをかまえた小島善太郎の作品などが見られる小島善太郎記念館が開館しています。

##### （2）宅地化される七生

七生地域をはじめとする日野では、昭和40年代初頭から宅地開発が多く行われることとなりました。特に七生地区の丘陵部は大規模に開発が行われたことにより、人口は10年で3.88倍も増えることとなりました。団地や住宅街の誕生により、多くの小・中学校も相次いで誕生していきました。高等教育でも、昭和39年には明星大学、昭和60年には都立南平高校が七生地域にできました。そして、平成12年には日野地域と七生地域を結ぶ多摩モノレールが開業したことにより利便性が向上しました。

（新選組のふるさと歴史館 高橋 秀之）

### 3. 郷土教育のための普及・啓発

#### (1) 地域を知る指導者の育成

三沢を訪ねて～湯沢・中沢・小沢を歩いて～

#### フィールドワーク

地域には、これまでの歴史を感じさせる遺物や暮らしと結びつく自然が多く残っている。三沢の流れと雑木林の木々により肥沃な土地が培われ、この地域の歴史と深く結びついている。

七生は東西に細長く南北に短い地域であるが、傾斜地である七生丘陵には生産を支える自然があり、わずかに残った低地には水田が開かれ米づくりが行われ、現在の団地開発が行われるまでは豊かな自然を残していた。

#### 1. 湯沢川

三沢の地名の由来は、湯沢・中沢・小沢（こざわ）の三つの沢から流れる湧水である。この流れのうち最も大きなものは湯沢である。

この沢の流れに合わせ、三沢村は西から上郷、中郷、下郷に分かれていた。そして、この3つの地域ごとに神社が祀られていた。



#### 2. 金子屋敷公園

湯沢をしばらく下ったところに「金子屋敷公園」がある。この「金子屋敷」の場所ははっきりしないが、この公園を上ったところとも、西武三沢台団地南側の給水塔の辺りとも言われている。

金子氏は三沢十騎衆の一員といわれ、近在の農具を作ったり、補修していたりしていたという。



#### 3. 湯沢の流れ

これは、湯沢の流れであるが、昔、三沢村は山林が約50%弱を占め、山は里山として豊かな恵みがあった。明治12年には薪炭の生産量は13800貫（約5.175トン）もあった。

この頃、薪炭の値は高く、養蚕と共に大きな収入になった。



#### 4. 医王寺跡

医王寺の庫裏は川崎街道南に移され、その跡地が現在の三沢地区センターになった。西端に医王寺関係の石仏、笠付の立派な庚申塔がある。宝永6年（1709）三沢村庚申講中とあり、医王寺の名も刻まれている。



#### 5. 旧名主家跡

川崎街道に下りてくると、目の前にガソリンスタンドが見えてくる。ここは昔金剛寺末寺の医王寺の跡であり、隣が旧名主宅跡である。

明治7年、潤徳学舎は仮校舎をここに置いたが、焼失したため土方家（現ファミリーレストラン付近）の長屋門に移す。



#### 6. 旧三沢八幡神社

北条氏照に仕えた三沢十騎衆と称する土方一族の氏神で、上郷の鎮守であった。明治42年に中郷・下郷の両神明社を合祀し、昭和53年社殿建て替えに際し、中郷神明社跡地に遷宮した。跡地には遷宮記念碑が建てられていて、現在は旧社殿の屋根の残骸が朽ちてある。



#### 7. 名主宅跡

名主宅跡の一部が現在ファミリーレストランとなっている。名主の土方家は三沢十騎衆の頭領だったといわれ、十騎衆あて、北条氏照あての古文書が金剛寺（現高幡不動尊）に残っている。

湯沢はこの屋敷に沿って流れやがて程久保川へと落ちていく。



## 8. 現三沢八幡

諏訪神社、天王社、上郷・中郷神明社が合祀されている。祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと）、応神天皇、天照大神。且つて上郷、中郷、下郷に分かれていた三沢八幡であったが今は一つにまとまっている。



## 9. 三沢八幡拝殿

現三沢八幡は、旧三沢八幡より昭和53年に遷宮された。昭和61年に現在の鉄筋コンクリート造りの社殿に建て替えられ、諏訪神社、天王社、上郷・中郷神明社が合祀されている。



## 10. 中沢を登って

湯沢を下り、三沢村の中心を見た後、中沢を上っていく。三沢地区の最も高いところに向かって歩いていく。フィールドワークでは現在給水塔のあるところまで登っていった。



## 11. 滝ノ上公園

中沢は、丸山の北側より流れだし、西武三沢台住宅地内西側にあたる滝ノ上公園を北流し、中郷集落を抜け、上田用水堀より谷川（現程久保川）に入る沢である。



## 12. 三沢台給水塔へ

中沢を上りながらふと後ろを振りむくと、日野市の市街地が良く見える。かつてこの地域が「七生丘陵」と呼ばれてハイキングコースであったことがよくわかる。



## 13. 給水塔

給水塔から「七生緑小学校」へ降りてきたところ。かつては見晴らし台があった場所だったかもしれない。先ほど金子屋敷公園を通ってきたが、一説にこの辺りが「丸山」とも言われている。



## 14. 小沢緑地

小沢は、丸山（給水塔のあたり）東より下郷の旧神明社（神明谷戸）を北流し川崎街道を横断し、落川堀に入る。

日野市唯一の滝がある。現在は立ち入り禁止。三沢で泥岩の露頭丘陵の湧水を代表している。



## 15. 東京の名湧水57選

旧下郷神明社の脇を小沢（こざわ）が流れ、その水源は西武三沢台団地の東緑地帯にある。「溪流の源、小沢湧水」と「東京の名湧水57選」の標識が建っている。



## 16. 馬頭観音

地域の農民は馬を家族の一員として大切に飼っていたので、馬が死んだ時は手厚く葬った。この「嘉永2年（1849）三沢講中」名の馬頭観音は、馬に年貢を積んで土橋を渡ったところ、その重みで橋が崩れ、橋杭が馬の腹に刺さり、それがもとで馬が死んだのでその供養のため造立したという。



## 17. 金田用水

このあたり一面は水田が広がり肥沃な穀倉地帯で、この地よりはるか西を見ると前方に高幡山の松と不動の屋根が見えるだけで、春の麦秋、秋の黄金色の稲穂の波は見事であった。今は宅地化が進みその片鱗もない。



## 18. 金田公園

このあたり一帯は、金田耕地あるいは大宮耕地と呼ばれ、良好な水田として耕作が続けられてきたが、時代の変化に伴って区画整理の必要性が叫ばれるようになった。

この沿革誌は昭和59年3月に都市基盤の整備のために完成した公園内の沿革誌である。



### Ⅲ 研究のまとめ ～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～七生地区を中心とする地域素材の教材化を通して～」のもと、1年間、研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土資料の教材化を通して、指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子供たちに郷土の特色やよさを伝えたいと意識を高めたことである。教師の意識の高まりと授業実践意欲が、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

今年度の成果は大きく二点あると考える。その一点は、何といたっても郷土教育推進研究委員が連携しての授業づくりと実践である。特に、七生地区、多摩動物公園の設置・発展に尽くした林寿郎と平山遺跡とそこから発掘された土器や遺跡を教材とし、日野市教育委員会生涯学習課文化財系の宮本涼子学芸員と連携しての授業である。

もう一点は、七生地区冊子づくりに向けて、各委員が分担して七生地区の教材開発を進めたことである。第13集では七生地区冊子の具体的な執筆にまで至らなかったが、次年度に向けて取り組める準備が整った。

#### 1. 成果

##### (1) 郷土教材の開発と指導者の育成

- ① 新しい指導資料を発掘し、継続した教材の作成に努めることができた。  
七生地区、特に三沢の教材化を図った。
- ② 全校遠足で利用している多摩動物公園を教材化することで、学習をより身近なものと感じさせることができた。
- ③ 学区域から発掘された土器に直接接触することで、学習意欲を高めることができた。
- ④ 驚きをもって学区域にある遺跡を理解することができ、身近に歴史を感じさせることができた。
- ⑤ また、日野市教育委員会生涯学習課文化財係宮本涼子学芸員より土器について解説をしてもらうことができた。

##### (2) 郷土資料館・図書館等関係機関と連携した学習指導法の研究

- ① 問題把握・追究・まとめの学習過程で、効果的に郷土資料を活用し、問題解決型の授業を推進することができた。
- ② 新選組のふるさと歴史館や郷土資料館の展示内容を適宜紹介してもらい、相互に連携した教育活動を推進することが可能となった。
  - ・社会科見学での十分な打ち合わせと体験学習の導入を図った。
  - ・郷土資料館による実物の郷土教材を活用した出前授業の充実を図った。
  - ・図書館保有資料（図書、広報、写真）を活用した授業を実践することができた。

- ③ 関係機関、地域人材と連携した授業、各委員の協力によりフィールドワークを実施することができた。
- ④ 幼稚園による関係機関・地域人材と連携した園外保育の工夫ができた。

### (3) 郷土教材の電子データ化

- ① 「郷土日野」指導事例集と指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。
- ② 郷土教育に電子データ化された教材やICT機器を活用した授業実践を行うことができた。
- ③ 過去のプレゼンテーションデータを全員が共有し、活用することができた。

### (4) その他

- ① 本市小学校校長会の理解と協力のもと郷土教育推進研究委員にとどまらず、市内全教員に対し授業を公開することができた。
- ② 郷土教育推進研究委員会委員が、1年間の継続研究を通して、日野のよさ・特色に気付き、郷土の教材化・授業実践の楽しさを体験した。また、子供、保護者、地域と共に授業を創造し、授業力を向上させた。
- ③ 本委員会に学校現場から、フィールドワーク、授業、若手教員指導の要請が増え、できる限り学校現場の期待に応えている。

## 2. 課題

- (1) 研究推進・授業実践の成果をさらに継承・発展・定着させることが重要である。これまで本委員会で培ってきた郷土教育の内容や指導法を若手教員に定着させていくことが大切である。
- (2) 郷土教育推進リーダーの養成と若手教員の育成が必修である。教育現場では、郷土教育日野への理解が深まり実践意欲が高まりつつあるが、教員・学校間の郷土教育への関心度の差が大きい。「日野をふるさとと思い、日野に誇りと愛着をもった教員」「ひのっ子教育を背負って立つ気概をもった教員」の育成が必要である。
- (3) 日野市教育委員会と連携し、日野の特色やよさが理解できるフィールドワーク・教材化・授業づくりを工夫した研修会を充実させることが必要である。
- (4) 博物館、図書館、公民館等生涯学習関係機関との連携・協力関係を深め、学校との人材の交流、協働授業等の協働関係をさらに充実させることが必要である。
- (5) 本委員会所属委員間で相互に授業を見合い、児童・生徒の実態、郷土教材の有効性を検証し、よりよい教材化と授業実践を図りたい。

(中島 和夫 廣木 智之)

### 郷土教育推進研究協力者（敬称略）

- ・宮本 涼子 生涯学習課文化財係 講師
- ・高橋 秀之 新選組のふるさと歴史館 講師
- ・草木 利香 市政図書室 資料提供
- ・白川 未来 郷土資料館 講師
- ・千葉 正 教育センター ICT活用 ホームページ情報発信

### 郷土教育推進研究協力団体

- ・日野市立日野第八小学校 松永 式子 潤徳小学校長 施設利用
- ・日野市立七生緑小学校 加藤 敏行 日野第八小学校長 施設利用

### 平成29年度 郷土教育推進研究委員会委員

No.	役職	所属	職	氏名	学年
1	委員長	仲田小学校	校長	池田 泰章	
2	副委員長	日野第一小学校	副校長	秋田 克己	
3	顧問	元渋谷区立常盤松小学校	元校長・学識経験者	會田 満	
4	顧問	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉野 美智子	
5	顧問	元日野市立日野第一小学校	元校長・学識経験者	小杉 博司	
6	顧問	大坂上中学校	校長	高橋 清吾	
7	委員	第二幼稚園	教諭	井上 晴香	幼
8	委員	第四幼稚園	教諭	杉山 由佳	幼
9	委員	日野第六小学校	教諭	島谷 直樹	5年
10	委員	潤徳小学校	教諭	木村 文子	3年
11	委員	平山小学校	主任教諭	堀内 正人	3年
12	委員	日野第八小学校	教諭	島方 健太	5年
13	委員	滝合小学校	教諭	関根 夕紀	4年
14	委員	南平小学校	主任教諭	久保田 聡	4年
15	委員	東光寺小学校	教諭	渋谷 崇伸	5年
16	委員	夢が丘小学校	教諭	永吉 智洋	3年
17	委員	七生緑小学校	教諭	大久保 有紀	5年
18	委員	新選組のふるさと歴史館	学芸員	高橋 秀之	
19	委員	郷土資料館	学芸員	白川 未来	
20	委員	市政図書室	司書	草木 利香	
21	事務局	市教育委員会学校課	指導主事	岡元 大輔	
22	事務局	教育センター	所員	中島 和夫	
23	事務局	教育センター	所員	廣木 智之	



郷土教育推進研究報告書

平成29年度「郷土日野」指導事例 第13集

発行日 平成30年 3月31日  
発行 日野市立教育センター  
郷土教育推進研究委員会  
〒191-0042 日野市程久保550  
TEL 042-592-0505  
FAX 042-592-1148  
印刷 システム印刷株式会社